

ULTRA!小論文(基礎編)

第0講

【ガイダンス(講座紹介)】

Career Development Adviser
(厚生労働省指定キャリア・コンサルタント)

クロイワ 正一

1

講師のクロイワ 正一です

- **大学・大学院受験にて小論文の解法を編み出しました**
 - 一橋大学社会学部、慶應義塾大学文学部
 - 一橋大学大学院商学研究科経営学修士コース
- **小論文の基礎理論を学びました**
 - 大学(学部)時代に**社会心理学のコミュニケーション理論**を専攻しました
 - **コミュニケーション理論**とは「相手を**理解**し、自分を**理解**してもらうための効果的な方法」を研究する学問です。
- **大学・大学院入試小論文の指導実績**
 - ヘルメスゼミ®の運営
 - 高校での講義
 - 予備校や通信添削での講義
 - 大学や社会人対象のセミナーでの講義

2

ULTRA!小論文(基礎編)の特徴

- 良質な【例題】をもとに実践的な解説を展開
 - 入試問題から厳選した豊富な【例題】を解く過程を示すことによって「試験場で使える力」を養成します
- 応用可能な小論文問題の【解き方】を提示
 - 多種多様な入試小論文の問題に応用できるULTRAという【解き方】を示し、柔軟な解答力を養成します
- 「どこが評価されるか」という【評価基準】を開示
 - 自己採点もできるようULTRAの基準に沿って【採点基準】も示し、「採点を意識した解答力」を養います
- 答案を書く際に求められる【教養】も養成
 - 多様な【例題】解説を通じて、小論文の解答に必要な「現代社会が抱える諸問題」についての【教養】も養います

3

全15回講座の概要

- 【ULTRA!小論文(基礎編)】講座の全体像

第0講	全体像のご紹介	第8講	Action②
第1講	文章づくりのコツ	第9講	形式別攻略法①
第2講	ULTRA攻略法	第10講	形式別攻略法②
第3講	Understand	第11講	形式別攻略法③
第4講	Logic①	第12講	形式別攻略法④
第5講	Logic②	第13講	テーマ学習①
第6講	Trimming	第14講	テーマ学習②
第7講	Action①	第15講	テーマ学習③

4部からなるULTRA小論文

- **ULTRA**のご紹介(第1講～第2講)
 - 「**ULTRA**とはなにか」をご紹介します
 - Understand, Logic, Trimming, Action
- **ULTRA**の詳細な説明(第3講～第8講)
 - 「**ULTRA**」の4つの要素を詳しく解説します
- **出題形式別**攻略法(第9講～第12講)
 - 文章型など**出題形式別**攻略法を解説します
 - テーマ型, ワード型, 文章型, 図表型ほか
- **テーマ学習の基礎**(第13講～第15講)
 - 入試で問われる**テーマ**について解説します
 - 人間論・現代社会論, 制度疲労, 科学技術など

5

学習の進め方

【映像】での学習

【テキスト】にメモを取りながら【映像】を観る

【例題】の解答

【映像】での解説を参考にして自力で**答案**を書く

【評価】項目で採点

解答用紙の【評価】項目で自己**採点**する

【テキスト】での確認

【テキスト】を参照し理解度を**確認**する

答案評価・自己評価

- 下記のULTRAのそれぞれの項目により採点

Understand	人材要件(「求める人材」)を理解しているか
	設問を理解しているか
	資料(文章や図表)を理解しているか
Logic	論拠(論の根拠)を提示しているか
	具体的事実(証拠)を提示しているか
	矛盾や飛躍はないか
Trimming	構成わかりやすいか(Main Point First)
Action	表現(語法など)は正しいか
	表記(漢字、固有名詞など)は正しいか

【実践編】もあります

- **【社会・人文科学系小論文講座】**とは
 - 法・経済・商・経営・文学部など文系学部対策の発展的講座(難関私大・国公立大向け)です
 - 言語論、文化論、高度情報化、歴史論、ジェンダー論、高齢化、教育論、豊かさ論、国家論、グローバル化などのテーマを詳述します
- **【自然科学・医療系小論文講座】**とは
 - 理・工・理工・医・看護・保健科学部など理系学部対策の発展的講座(難関私大・国公立大向け)です
 - 科学・科学技術論、環境倫理、生命倫理、情報倫理、エネルギー利用、先端生命科学などのテーマを詳述します

実践編(社会・人文科学系)

・社会・人文科学系カリキュラム(全10回)

第1回	言語論	第6回	高齢化
第2回	文化論	第7回	教育論
第3回	高度情報化	第8回	豊かさ論
第4回	歴史論	第9回	国家論
第5回	ジェンダー論	第10回	グローバル化

9

実践編(自然科学・医療系)

・自然科学・医療系カリキュラム(全10回)

第1回	科学・科学技術論	第6回	科学者の責任
第2回	科学技術と倫理	第7回	科学的推論
第3回	環境倫理	第8回	エネルギー利用
第4回	生命倫理	第9回	新しい科学
第5回	情報倫理	第10回	先端生命科学

10

ULTRA!小論文(基礎編)

第1講

【文章づくりのコツ】

Career Development Adviser
(厚生労働省指定キャリア・コンサルタント)

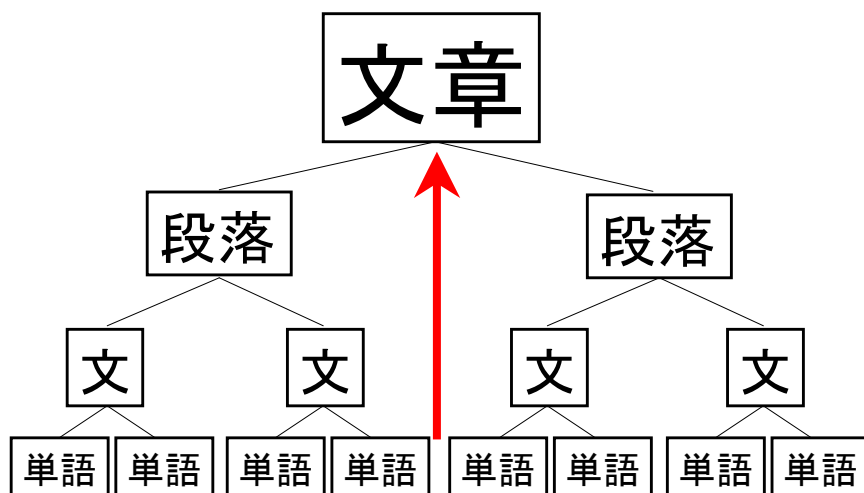
クロイワ 正一

11

クロイワ 正一 自己紹介

- 群馬県・草津温泉出身
- 大学・大学院受験にて小論文を課す大学にすべて合格
 - 一橋大学社会学部、慶應義塾大学文学部
 - 一橋大学大学院商学研究科経営学修士コース
- 大学(学部)時代にコミュニケーション論を専攻
- 大学入試小論文指導者(ヘルメスゼミ)
 - 著書・講演・講義
 - 『クロイワの楽勝!小論文』(KKロングセラーズ)
 - 『推薦・AO入試!超(ULTRA)マニュアル』(KKロングセラーズ)
 - 『志望理由書の模範的書き方』(ライオン社)
 - 『面接試験での模範的答え方』(ライオン社)
 - 『推薦・AO入試のための小論文+面接』(実教出版)ほか多数
 - 大学での論文・レポート指導(埼玉大学、専修大学、法政大学ほか)
 - Z会ほかにて大学入試小論文を指導、カリキュラム作成
 - 法科大学院入試小論文DVD指導(LEC東京リーガルマインド) ¹²

文章づくりのコツ



13

《例題》

「私の夢」というテーマで作文しなさい。

① 単語から文へ

- 「私の夢」に関連する単語を思い出す。
- 思い出した単語を使って、「主語＋述語」の入った文をつくる。

(例) 私の夢は.....である。

私は、.....になるという夢を持っている。

~~私は昨夜.....夢を見た。~~

14

② 文から段落へ

- 「**私の夢**」に関連する内容を分ける。
 - (ア) **夢の内容**
 - (イ) **夢を抱いたきっかけ(理由)**
 - (ウ) **夢を実現するための努力** など
- それぞれの内容を「主語＋述語」の入った文にする。

15

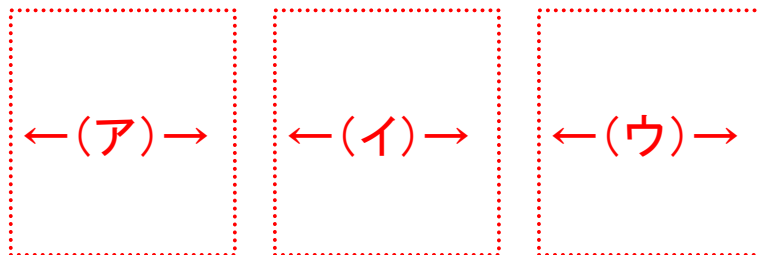
(例)「夢」についての3つの文

- (ア) **夢の内容**
 - 「私の夢は、英語の教師になることです」
- (イ) **夢を抱いた理由**
 - 「高校に入り英語の先生に効果的な勉強法を教わり、中学時代に苦手だった英語が、得意になったからです」
- (ウ) **夢に向けた努力**
 - 「英語の教育法が学べ、教職課程を備えた大学に進学するため、(私は)1年の今から基礎学力をしっかりとつけていきたいと考えています」

16

③ 段落から文章へ

- (ア)(イ)(ウ)のそれぞれの内容をふくらませる。



17

内容のふくらませ方

1. 言い換える(換言)
 - 「つまり、すなわち、言い換えると」などで、別の表現に言い換える
2. 詳しく述べる(詳述)・例を挙げる(列挙)
 - 修飾語を加える、例をあげる
3. 反対の考えをあげて強める(譲歩)
 - 反対の考え(対立概念)をあげて、自分の考えと比較し、自分の考えが優れていることを示す。「なるほど(もちろん、たしかに)……かもしれない。しかし、……」

18

(ア) (イ) (ウ)の内容を それぞれふくらませる

1. 言い換える
2. 詳しく述べる
3. 反対の考えをあげて強める

19

(例)各段落の内容を膨らませる

- (ア)「私の夢は、生徒が興味を持って勉強に取り組めるように促せる英語の教師になることです。すなわち、授業に創意工夫を凝らし、生徒たちの学習意欲を引き出せる先生になりたいのです」
- (イ)「私が英語の教師を目指すようになった理由は、以下のとおりです。つまり、高校に入り英語の先生に効果的な勉強法を教わり、中学時代に苦手だったこの科目が、得意になったからです。例えば、覚えにくい単語は、見て、書いて、発音してなど、五感を活用して覚えたり、語呂合わせを使って記憶したり、さまざまな工夫を教えていただきました。」
- (ウ)「英語の教育法が学べて、教職課程を備えた大学に進学するため、(私は)1年の今から基礎学力をしっかりとつけていきたいと考えています。もちろん、志望する大学に合格するには基礎学力だけでは足りないかもしれません。しかし、基礎を固めることなしに受験を突破できる応用実践力は養成できません。ゆえに……」²⁰

大学入試小論文・作文の実際

- **小論文と作文** : 「違い」はあるのか？
 - 「**作文**」試験の例
 - 「21世紀における食と健康」 (東京農業大学)
 - 「**小論文**」試験の例
 - 「21世紀と人間の幸福」 (文教大学)

21

実際の試験問題の「問い」とは？

- **【例1】**
 - 「現代社会の反省点について、800字以内であなたの考えを述べなさい」 (日本大学)
- **【例2】**
 - 「次の問題文についての自分の考えを、別紙の解答用紙に800字以内でまとめなさい」 (中央学院大学)
- **【例3】**
 - 「次の3つの図表を読みとって、小・中学校における家庭教育の意義について、あなたの考えを800字以内でまとめなさい」 (文教大学)

22

どこを評価されるか？

- この試験は、広い意味での社会科学・人文科学の領域から読解資料が与えられ、問いに対して論述形式の解答が求められる。その目的は受験生の理解、構成、発想、表現などの能力を評価しようとするものである。そこでは、読解資料をどの程度理解しているか(理解力)、理解に基づく自己の所見をどのように論理的に構成するか(構成力)、論述の中にどのように個性的・独創的発想が織り込まれているか(発想力)、表現がどの程度正確かつ豊かであるか(表現力)が評価の対象となる。(慶應義塾大学・法学部「法学部の論述力について」より)

23

評価されるポイント

- **理解力**
 - 設問や資料(文章や図表)を読み解く能力
- **論理的思考力**
 - 「理」に基づいて「論」を導く力
- **独創性**
 - 一般論ではない問題意識の提示
- **構成力(意見の明解さ)**
 - わかりやすい位置にはっきりと意見を出す整理力
- **表現力**
 - 的確な日本語で表現する力

24

ULTRA!小論文(基礎編)

第2講

【小論文・ULTRA攻略法】

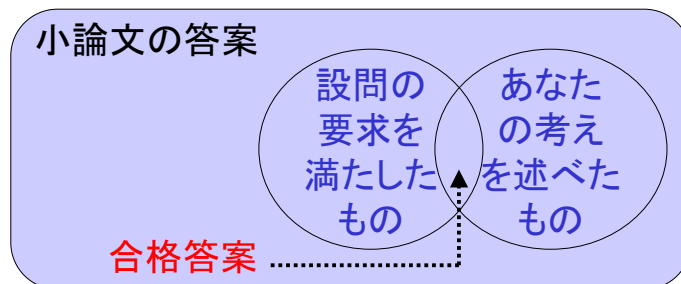
Career Development Adviser
(厚生労働省指定キャリア・コンサルタント)

クロイワ 正一

25

入試小論文の特徴

- 設問に対して答えるもの
 - 設問の要求を満たさないものは不合格答案
- 「あなたの考え」(論)を述べるもの
 - 「あなたの考え」らしくないものは不合格答案



ULTRA

- 理解 (Understand)
- 論理 (Logic)
- 整理 (TRimming)
- 表現 (Action)

27

例題で考えてみよう!

【例題】

次の文章を読み「高齢期をどう迎えるか」について、あなた自身の考えを600字以内で述べなさい。

(問題文)

日本では戦後、平均寿命が80歳にまで延びました。しかし、寝たきりや認知症の問題などもあり、手放しでこの長寿を喜べません。

定年退職の年齢は、大体60歳だから、現役引退後の生活は平均して20年にも及びます。この時期の過ごし方を、真剣に考える必要があります。

28

Understand

小論文を解く手順(理解)

- **出題意図**を事前に理解する
 - 「小論文試験でみる能力」を事前に理解しておく
- **設問**を分析的に理解する
 - 「次の文章を読む」ことが前提
 - 「高齢期をどう迎えるか」がテーマ
- **資料(文章や図表)**を構造的に理解する
 - 寝たきり、認知症などで素直に長寿を喜べない日本(根拠、論拠)
 - 現役引退後の過ごし方を真剣に考える必要がある(主張、論)

29

Logic

小論文を解く手順(論理)

- **論理**の過程とは
 - 論(あなたの考え、主張)の基となる理(理由、根拠)を探る工程
- 論が導かれる2つの過程
 - 体験や観察など「具体的事実」が理由となって論が芽生える……【 **帰納法** 】
 - 社会の常識や法則など「一般的前提」が理由となって論が芽生える……【 **演繹法** 】

30

【論理づくり】のポイント(帰納法)

- 帰納法で考える

- 体験や観察の想起

- 私の祖母は80歳を超えるが、日本舞踊の師匠として毎日生き生きと暮らしている。「なにもやらない同級生は、みんな老け込んじゃって」というのが口癖だ。

- 具体的事実を一般化する

- 高齢期(現役引退)を迎えても、特技があれば、仕事(経済手段)や生き生きとした生活(生きがい)を得られる。

31

【論理づくり】のポイント(演繹法)

- 演繹法で考える

- 社会の常識や法則の想起

- 人間は肉体的健康だけでなく精神的な満足もないと、生きていても辛くなる。

- 一般的前提をテーマにあてはめる

- 高齢期でも、肉体的に存在するだけでなく、周辺社会から認められるなど、精神的満足感が保てるような生活を送る必要がある。

※演繹法は「三段論法」とも言われる

32

小論文を解く手順(整理)

- 論理づくりの過程を整理する
 - 盛り込むべき要素の取捨選択
 - 論点: テーマ(〇〇について考えたい。〇〇とは.....)
 - 論: 意見、主張(私は.....考える)
 - 論拠: 理由・根拠(そう考える理由は.....)
 - 並べる順序(構成)を整える
 - 序論: (導入+)**論点** + **論**
 - 本論: **論拠** + **具体例**
 - 結論: **論**の確認

33

【整理】のポイント

- 序論
 - 導入: 問題文の趣旨を説明(理解力をアピール)
 - 論点: 「では、これから高齢期をどう迎えるか」
 - 論: 「高齢期に向けて個々人の準備が必要だ」
- 本論
 - 論拠: 「なぜなら、結局満足は個人のところで感ずるものだから」
 - 具体例: 「例えば、.....」
- 結論
 - 論の確認: 以上の考察より、やはり個々人の準備が必要だ。
 - 方向性: 経済学部では高齢者雇用など研究したい。

34

Action

小論文を解く手順(表現)

- **整理**の段階でつくった構成を壊さずに書く
 - 構成の確認
 - 「**骨組み**」に「**肉付け**」してふくらませる
- **的確な日本語表現・表記**で書く
 - 原稿用紙の使い方
 - 正しい語彙、文法知識の反映

35

肉付けのテクニック

1. **言い換え(換言)**:「すなわち」「つまり」「言い換えると」などを用いて、別の表現に言い換える方法。
2. **詳しい説明(詳述)**:具体例を述べたりするとき、5W2H (when, where, why, what, who(m), how, how many (much))などをより詳しく述べる方法。
3. **複数の例をあげる(列挙)**:複数の具体例をあげ、具体的かつ多角的に説明する方法。
4. **掘り下げ(深耕)**:一度説明したことを、「なぜか」と自問し、さらに掘り下げる方法。
5. **反論を想定し覆す(譲歩)**:あえて想定される反論を挙げ、それを覆す方法。

36

【表現】のポイント

【解答例】

文章の筆者は、寝たきりや認知症の問題もあり、平均寿命の延びを手放しで喜べないこの時代、高齢期の過ごし方を真剣に考える必要があると主張している（導入）。では、そのような不安な要素がある高齢期をどう迎えるか（論点）。結論からいえば、私は、個人が高齢期に向けてさまざまな準備をすることが重要だと考える（論、以上序論）。

37

そう考える理由は、以下のとおりだ。平均寿命まで生きるとすれば、定年退職後は約20年もある。社会の第一線から退いた状態で、そんなに長い時期を充実して過ごすには、それだけの経済力と生きがいが必要だ。そのために、若い時期から高齢期のための生活資金や生活手段、趣味、社会参加活動などについて考え、準備しておく必要がある（論拠）。実際、私の祖母は80歳を超えるが、日本舞踊の師匠として毎日生き生きと暮らしている。「なにもやってない同級生は、みんな老け込んでしまって」というのが口癖だ。祖母のように、高齢者になっても活かせる特技があれば、収入や生きがいをつくり出せるのだ（具体例、以上本論）。

38

以上のことから、長生きしたことを喜ばしく思えるために、高齢期を迎えるまでに、さまざまな準備をしておく必要がある（論の確認）。私が学ぼうとしている経済学でも、高齢者雇用のありかたや、年金制度の見直しなど、問題がたくさんある。次世代の経済を担う当事者としても、この問題意識は持ち続けたい（方向性、以上結論）。（約600字）

39

40

ULTRA!小論文(基礎編)

第3講

【 Understandのポイント 】

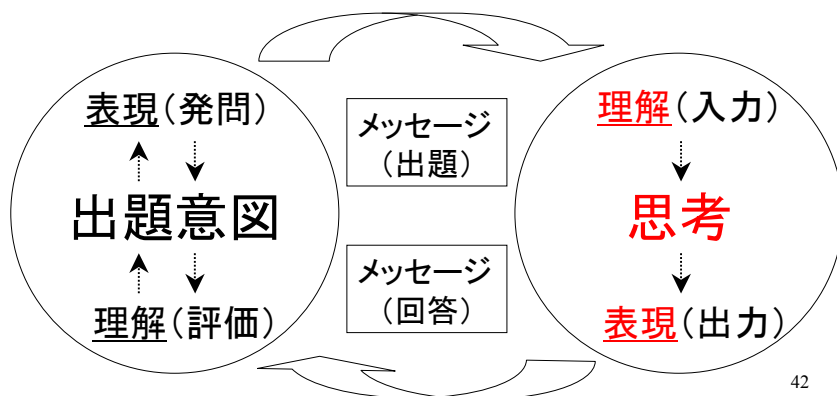
Career Development Adviser
(厚生労働省指定キャリア・コンサルタント)

クロイワ 正一

41

小論文はコミュニケーション!

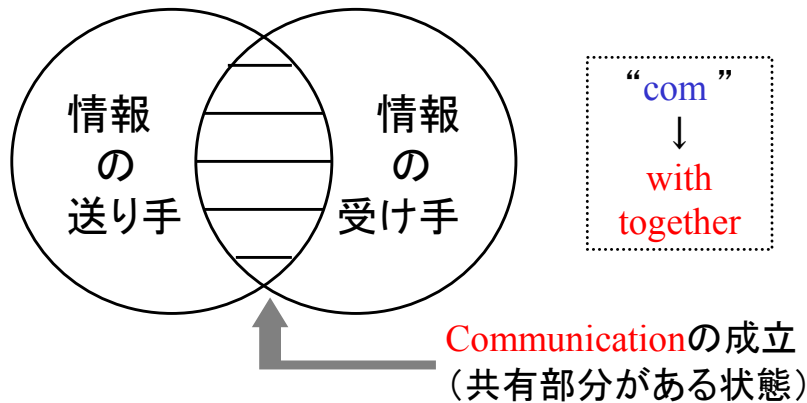
- 「書きたいこと」を書ばいいわけではない
- 「求められたこと」を書くことが重要



42

コミュニケーションとは？

- communication は “共有, 分かち合い”



Understand (理解) から始めよう

- 小論文を書く前の3つの理解
 - 出題意図、評価ポイントの事前理解
 - 高校の教科に「小論文」はない
 - だから大学側は「どこをみるか」を明示
 - 設問の理解 ← 徹底的に分析
 - 字数、テーマ、立場など
 - 資料(文章、図表)の理解
 - 形式別小論文(文章型、図表型)で解説

44

どんな点が評価されるか？

- 評価ポイント(例)

- 自己の意見を含めて、思考内容を論文形式で表現する力を審査します。① 英語：長文の英語文資料に基づき思考力・表現力を見る(一部、英語による解答を求める)。② 日本語：長文の日本語文資料に基づき思考力・表現力を見る(早稲田大学政治経済学部・AO入試)
- 社会・文化に関する英語の論文又は資料を示して理解力、判断力、表現力をみます。(一橋大学・法学部&社会学部後期および商学部・推薦入試)

45

評価ポイント(例)

- この試験は、広い意味での社会科学・人文科学の領域から読解資料が与えられ、問いに対して論述形式の解答が求められる。その目的は受験生の理解、構成、発想、表現などの能力を評価しようとするものである。そこでは、読解資料をどの程度理解しているか(理解力)、理解に基づく自己の所見をどのように論理的に構成するか(構成力)、論述の中にどのように個性的・独創的発想が織り込まれているか(発想力)、表現がどの程度正確かつ豊かであるか(表現力)が評価の対象となる。(慶應義塾大学・法学部「法学部の論述力について」より)

46

一般的な評価ポイントの理解

- **理解力 (Understand)**
 - 設問や資料(文章や図表)を読み解く能力
- **論理的思考力・独創性 (Logic)**
 - 「理」に基づいて「論」を導く力
 - 一般論ではない独自の問題意識の提示
- **構成力 (Trimming)**
 - 意見や根拠をよみやすく整理する力
- **表現力 (Action)**
 - 的確な日本語で表現する力

47

設問の理解

- **【例題】**
 - 最近、電車やバスの中で物を食べたり、化粧をしたりする人が増えています。あなたはこうした行為の原因や影響をどのように考えますか。賛成や反対の意見ではなく、社会現象の一つとして考察し600字以内でまとめなさい。
(類題・上智大学)

48

Understand (設問の理解)

- 最近、電車やバスの中で物を食べたり、化粧をしたりする人が増えています。
- **あなたは** こうした行為の**原因**や**影響**をどのように**考え**ますか。
 - あなた(私)の考えを聞いている！
 - 電車・バス内での飲食や化粧の「原因」と「影響」について考えろと問われている！
- **賛成・反対の意見ではなく、社会現象の一つとして考察し、600字以内**でまとめなさい。
 - 賛成や反対(Yes/No)の議論はしてはしけない。
 - 社会現象の一つとして「考察」する必要がある。
 - 字数は600字以内だ。

49

Logic (論理づくり)

- **帰納法(具体的事実→意見)**
 - 電車やバスの中で飲食や化粧をしている具体的事実(「体験」や「観察」)を想起
 - なぜそうした行為が増えたのか(原因)
 - そうした行為が増えるとどうなるのか(影響)
 - その背後にある傾向を探る
- **演繹法(一般的傾向→意見)**
 - だれもが認めてくれる現代社会の「一般的傾向」を想起する
 - その傾向がどう「電車やバスの中での飲食・化粧」とつながっていくか、説明を考える。

50

素材探し

- **体験の想起(帰納法)**
 - 学校から習いごと教室に寄る日は夕飯をとる時間がないので、つい電車の中で食べてしまう.....
 - なぜ、現代人はそんなに忙しくなったのか?
 - ただし、忙しい人は皆そうするのか?
 - でも、ある朝お姉さんの化粧を見てたらイヤな気分になったなあ.....
- **一般傾向の想起(演繹法)**
 - 最近の世の中の特徴って..... やっぱり少子高齢化? 情報化? グローバル化? それとも.....
 - 利便性や合理性を追求するのが現代社会?

51

Trimming(整理=構成)

- **序論**
 - **論点**(問題提起): 電車やバスの中での飲食や化粧が増えた原因はなにか。そして、どのような影響が社会に及ぶか。
 - **論**(仮説=あなたの考え): 原因は、「職・学・住」など、空間が機能的に分離されたから。すると、対立や紛争が多くなる。
- **本論**
 - **論拠**(理由): なぜか。それは、空間の機能分離により移動が増え、私的な場で済ませべきことを移動中の公共の場で済ませようになるから。ただし、公共の場ではさまざまな異なった価値観が会うため、他者を不快にすることも多くなる。
- **結論**
 - **論の確認**: 以上より、空間を機能的に分けたことがこうした行為を増加させた。公共の場で対立が増える可能性がある。
 - **方向性**: 対立を防ぐルールづくりを研究したい。

52

Action(表現)

・序論

電車やバスの中での飲食、化粧が増えている原因はなにか。また、そうした行為の増加は、社会にどのような影響を与えるか(論点)。私は、社会空間が合理的・機能的に分断されたことが大きな原因だと考える。また、そうした行為が増えたと、公共の場で他者との対立や断絶が生じるといった影響が生まれるとも考える(論)。

53

・本論

なぜなら現代日本では「働く場・学ぶ場」と「住む場」を分けるなど、空間が合理的・機能的に分断されているが、そうすると移動を必要とするからだ。移動に割く時間が長いから、本来は私的な場でゆっくり行うべき食事や化粧などのための時間は減り、移動という非生産的な時間をそれに当てるようになる(論拠1)。また、そうした社会では、交通機関は「他者との交流の場、共有スペース」といった意識より、「移動空間」と割り切られるため、「恥」の意識も薄くなり、人目も気にならなくなる(論拠2)。現に、私も高校からの下校中、英会話教室に行くため軽い食事をバスの中でとる(具体例)。しかし、こうした現象が横行すると、周囲への配慮は欠如していく。そして、人同士の対立が生まれ、住みにくい社会になる。実際、私自身も、自分が傍観者になったときは、不快を感じた(論拠3)。

54

・結論

以上より、公共交通機関での飲食や化粧が横行する原因として、社会空間を合理的・機能的に分断したことを指摘できる。また、その影響として同じ社会に属する他者への無関心化が進み、対立や断絶が進む（論の確認）。しかし、社会には本来「お互いさま」意識が必要なので、こうした傾向は防ぐ必要がある。私は社会学的な視点からその策を考えたい（方向性）。

55

56

ULTRA!小論文(基礎編)

第4講

【Logicづくり①(帰納法)】

Career Development Adviser
(厚生労働省指定キャリア・コンサルタント)

クロイワ 正一

57

Understand から Logic へ

・【例題】

「日本文化は世界の文化の中でも他に似た例を見ないほど特殊で独特な文化である」という考え方についてあなたは賛成ですか、それとも反対ですか。
①「賛成」または「反対」の論を記した上で、②あなたがそう考える理由を、具体的な事例を挙げながら全体で600字以内でまとめなさい。

(類題・筑波大学)

58

小論文における論理的思考とは？

- 「私はこう考える(論=意見)」
- 「なぜならば～だから(論拠=理由)」
といった思考パターン

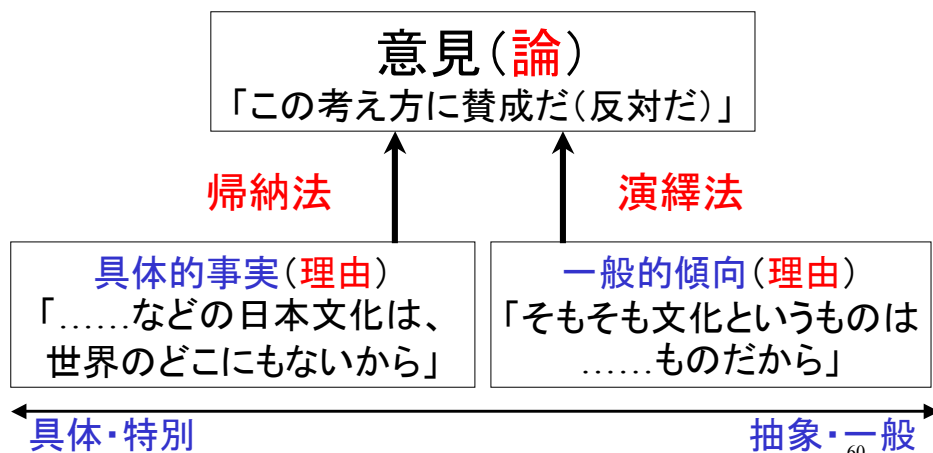
意見(論) ← 理由(論拠)

それが「論理的思考」です

59

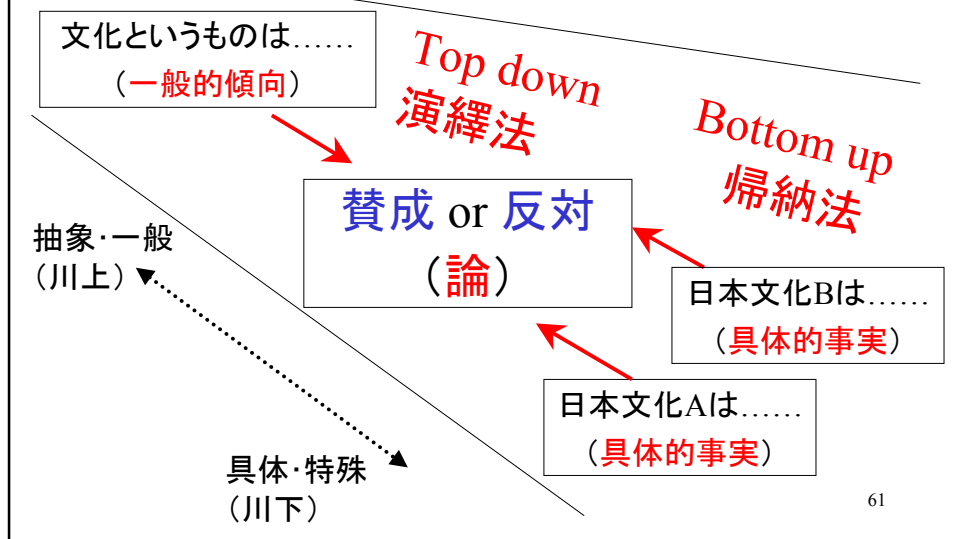
帰納法と演繹法

- 2つの方向からの理由づけ



60

「日本文化の特殊性」について (論点)



「論理」を生み出す二つのプロセス

- **帰納法** (具体的事実 → 一般的傾向 → 意見)
 - 人が考え(論)を持つのは、過去の経験があるから
 - ただし、経験がそのまま根拠にはならない
 - そこで「一般化」が必要
- **演繹法** (一般的傾向 → 意見 → 具体例)
 - 人が考え(論)を持つのは、常識と照合するから
 - ただし、常識を応用するだけでは独創性がない
 - そこで「具体化」が必要

62

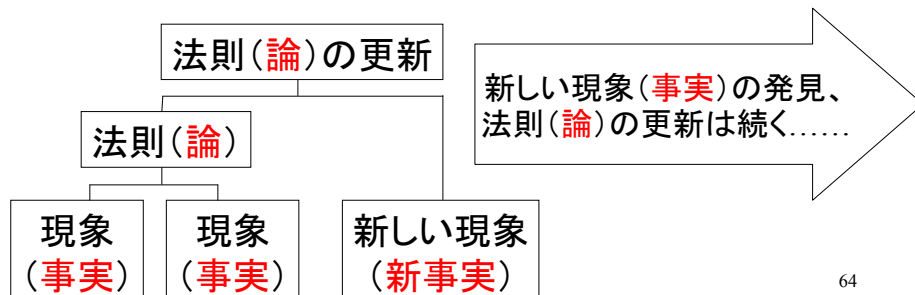
帰納法で考える手順

1. 論点に関する**具体的事実**(体験、観察など)を想起する
2. **具体的事実**から**一般的傾向**(他者や他の事実と共有できそうな要素)を導き出す
3. **論**(仮説)を決める

63

あらゆる結論は仮説に過ぎない

- 帰納法によって導かれた**論**は「新しい事実(現象)」の出現によって覆る**可能性**がある.....
- それゆえ暫定的なもの=**仮説**
- しかし、あらゆる論は仮説に過ぎない.....
(「科学の反証可能性」)
- だから勇気を持って**仮説**を示そう!



64

帰納法の実践(例)

1. 「てんぷらやすしといった日本の食文化も元々は海外から来たものだった」(具体的事実)



2. 「日本文化は海外文化の影響を受けて今の姿になった(似た例はある)」(一般的傾向)



3. 「日本文化は世界の中に似た例がない独特なもの……という意見には反対だ」(仮説)

65

「帰納法」を印象づけるために

- **帰納法**とは、どんな思考法か？

昨日(きのう)の体験から
学ぶ**帰納法**

66

Understand (設問の理解)

- テーマ : 「日本文化は世界の中でも他に似た例を見ないほど特殊で独特な文化である」という考え方への**賛否**
- 条件① : まず「**賛成**・**反対**」を記す。
- 条件② : 自分がそう考える理由を**具体的な事例**を挙げながら述べる。

67

Logic (帰納法による論理づくり)

- **日本文化**に関する**具体的事実**を想起
 - 生活様式 (衣食住、価値観、ことば.....)
 - 芸術様式 (美術、音楽、舞踊.....)
 - その他
- 複数の**具体的事実**の**傾向 (共通点)**を探索



68

Trimming(整理＝構成)

・序論

- －論点＋論：「日本文化は世界の中でも似た例を見ないほど特殊で独特な文化である」という考えについて（論点）私は**反対**である（論）。

・本論

- －論拠：なぜなら、日本文化は海外の文化の影響を受けている傾向があるからである。
- －具体例：例えば、てんぷら、すし……

・結論

- －論の確認＋方向性：以上より、表記の考えには**反対**である（論の確認）。今後、こうありたい（方向性）。

69

Action(表現)

・序論

私は「日本文化は世界の中でも似た例を見ないほど特殊で独特な文化である」という考え方に（**論点**）**反対**である（**論**）。

・本論

なぜ**反対**であるのか。それは、日本人が日本文化と認めるもの、そして多くの外国人もそう見ている文化の多くは、世界の他の地域の文化と共通の要素を持つからである。つまり、日本文化の類例は世界に多く見られるからである（**論拠**）。⁷⁰

・本論(つづき)

具体的な事例として、すし、てんぷらなどの食文化を挙げられる。私は、すしに関する本を読んだことがあるが、そのルーツはインドシナにある。魚のたんぱく質と米、こうじを利用して発酵させたものが原型であるという。日本の琵琶湖近隣にも伝統的に「鮒ずし」があるが、これをさらに発酵させれば、ナンプラーやニョクマムなどの魚醤になる。北陸や東北にも同じような魚醤はある。また、てんぷらも、ポルトガルからもたらされた食文化である。ポルトガル沿岸の、魚に衣をつけて揚げた「テンペラ」なる料理をテレビ番組で紹介していた(具体例)。そもそも文化とは異文化との交流を経て、その影響から変容していくものである。そう考えると、数千年の異文化交流を経験してきた日本文化の類例は、世界のいたるところに存在して当然なのである。⁷¹

・結論

以上の考察より、表記の考え方に私は反対だ(論の確認)。日本文化の中に潜む外国文化との共通点を探ることを通じて、地球的規模で協調や協力が図れるような方策を探りたい(方向性)。

ULTRA!小論文(基礎編)

第5講

【Logicづくり②(演繹法)】

Career Development Adviser
(厚生労働省指定キャリア・コンサルタント)

クロイワ 正一

73

Logic(演繹法による論理づくり)

・【例題】

「日本文化は世界の文化の中でも他に似た例を見ないほど特殊で独特な文化である」という考え方についてあなたは賛成ですか、それとも反対ですか。
①「賛成」または「反対」の論を記した上で、②あなたがそう考える理由を、具体的な事例を挙げながら全体で600字以内でまとめなさい。

(類題・筑波大学)

74

Understand(設問の理解)

- テーマ: 「**日本文化**は世界文化の中でも他に似た例を見ないほど**特殊で独特な文化**である」という考え方への**賛否**
- 条件①: まず「**賛成・反対**」を記す。
- 条件②: 自分がそう考える理由を**具体的な事例**を挙げながら述べる。

75

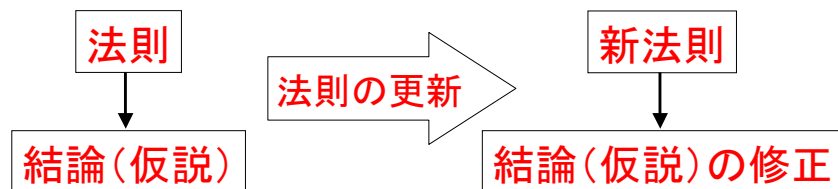
演繹法で考える手順

1. テーマに関する**一般的傾向**(現代社会の**常識、法則**など)を想起する
2. 想起した**常識、法則**を具体的な**論点**(**テーマ**)にあてはめ、**仮説**を決める
3. **仮説**に当てはまる**具体的な事例**を添える

76

前提(常識、法則)も変わる.....

- 演繹法で前提とする「常識」や「法則」も絶対ではない(科学の反証可能性)
- ゆえに、演繹法によって導かれた論も「絶対的真理」などではない(科学の限界)
- 反論覚悟で勇敢に意見(論)を展開しよう.....



77

演繹法の実践(例)

1. 「文化はその風土によって微妙な違いが生まれ独特なものになる」(一般的傾向)



2. 「日本文化も日本の風土に固有な特徴が備わった(表記の考え方に賛成)」(仮説)



3. 「例えば、てんぷらもすしも海外由来のものだが日本の穀物、海産物を素材とする点が海外のものと似て非なるものといえる」(具体例)

78

「演繹法」を印象づけるために

- 演繹法とは、どんな思考法か

法則から延々(えんえき)と
応用する**演繹法**

文化相対主義

延々と応用

日本文化

西欧文化

サハラ文化

79

演繹法(例:文化論の応用)

文化は成立する**風土の影響**
を受け**独自のもの**になる

延々と

応用できる

日本文化は日本の**風土の影響**を受け**独自の文化**へと変化した

西欧文化は西欧の**風土の影響**を受け**独自の文化**へと変化した

南米文化は南米の**風土の影響**を受け**独自の文化**へと変化した

80

演繹法で考える手順②

- 演繹法には、次のような説明のしかたもある
(三段論法)

A=Bである(大前提)
B=Cである(小前提)
よって、A=Cである(仮説)

81

演繹法の実践②(例)

• 文化 = 風土の影響により独自になる
(大前提)



• 日本文化 = 文化の一部
(小前提)



• 日本文化 = 日本の風土の影響を受け
独自になった!
(仮説)

82

演繹法で使う前提(現代社会の法則)

- 現代の法則(制度疲労論、科学技術論.....)
 - 制度は、ある時代の社会秩序を守るためにできたものだが、社会自体が変化すると、制度は機能しなくなることもある
 - 集合教育の制度は、明治時代(文明開化)や戦後社会(民主化)では有用であっても、成熟時代(民間教育の発達による学力格差の発生、グローバル化や情報化による価値観の多様化)には適さない(機能しない)部分がある
 - 科学技術は「利便性」と同時に、人間と環境に負荷をかけ「予期せぬ不都合」ももたらした
 - 生産技術、輸送技術、情報通信技術、医療技術などの発達により、生活は便利になったものの、事故による困惑、環境問題、経済格差、情報格差、プライバシーの侵害、高齢化、人口爆発などの不都合が起こった

83

文化論の変遷

- 文化に関する一般的傾向の想起
 - 自文化(自民族)中心主義(エスノセントリズム)
 - 劣等(異文化) → 進化 → 優等(自文化)
 - 文化相対主義(静態的文化論)
 - 「絶対」的に優れた文化などない!
 - 文化ができる風土(構造)によって独自の形になる
 - クレオール文化論(動態的文化論)
 - 文化とは他の文化との「交流」を経て「変容」していくもの
 - 文化の「純粋さ」や「伝統」を主張するのは嘘っぽいし危険でもある

84

Trimming(整理＝構成)

・序論

- －論点＋論：「日本文化は世界文化の中でも他に似た例を見ないほど特殊で独特な文化である」という考え方に（論点）私は賛成である（論）。

・本論

- －論拠：なぜなら、日本文化は風土の影響を受け他文化とは似て非なるものになったから。
- －具体例：例えば、てんぷらもすしも……

・結論

- －論の確認＋方向性：以上より、表記の考え方に私は賛成である（論の確認）。今後、こうありたい（方向性）。

85

Action(表現)

・序論

「日本文化は世界の中でも似た例を見ないほど特殊で独特な文化である」という考え方に（論点）、私は賛成である（論）。

・本論

なぜ賛成なのか。それは、日本文化の成立過程から判断しその特殊性を主張できるからだ。つまり、日本文化は、日本の独特の風土の中で生まれ、独自に変化してきたものである。他の文化もそうだが、異文化間には似たような要素もあるが細部を検証すると微妙に異なっている（論拠）。

86

・本論(つづき)

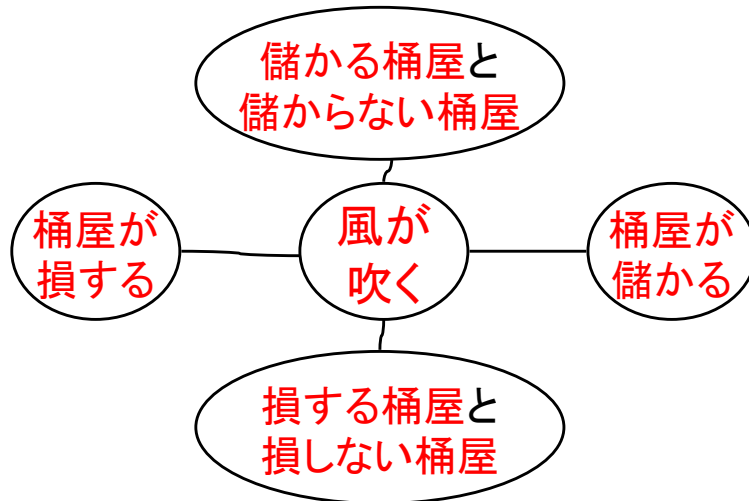
例えば、すし、てんぷらなどの食文化は海外から来た文化であるが、現在は独自に日本文化として定着している。私は、すしに関する本を読んだことがあるが、その原点はなんとインドシナ半島にあった。現在でも現地には郷土料理として残っているが、これは日本のすしとは似て非なるものである。使う魚や米の種類も違い、調味料も独自のものを用いている。また、日本で修行をしたすし職人が欧州で店を開いている映像も見たことがあるが、こちらでも現地特有の食材、装飾をして、日本文化とは異彩を放っていた(具体例)。そもそも文化とはそれが成立した風土、集団によって独自に形成されていくもので、人類共通の生活様式が、地域地域によって分化したものが文化といえるのだ。ゆえに、風土によって固有・独自の文化が成立するのは当然なのである。⁸⁷

・結論

以上の考察より、表記の考え方に、私は賛成である(論の確認)。日本文化を積極的に海外に広めるとともに、異文化交流も主体的に進め、地球的規模で文化多様性が認められ、寛容な社会を建設することに貢献していきたい(方向性)。

風が吹けば桶屋はどうなる？

- 論理的思考の可能性と限界



89

90

ULTRA!小論文(基礎編)

第6講

【Trimmingするポイント】

Career Development Adviser
(厚生労働省指定キャリア・コンサルタント)

クロイワ 正一

91

小論文の段落構成(非定型)

- ・ **柔軟な構成**(「序論・本論・結論」ではない型)
 - 設問の要求が細かいときは、設問の要求に柔軟に対応して、「序論・本論・結論」という定型に縛られない構成を考える。

(例)「次の図A, B, C, Dを読み、それぞれの要点を簡潔にまとめ、共通する問題点を探り、その解決策について、あなたの考えを述べなさい。

(構成例)

- ・ 第1段落: 図Aの要点、図Bの要点、図Cの要点
- ・ 第2段落: それぞれの図から読み取れる共通の問題点
- ・ 第3段落: 論点(解決策について) + 論(私は~考える)
- ・ 第4段落: 論拠(なぜなら~だから)...

92

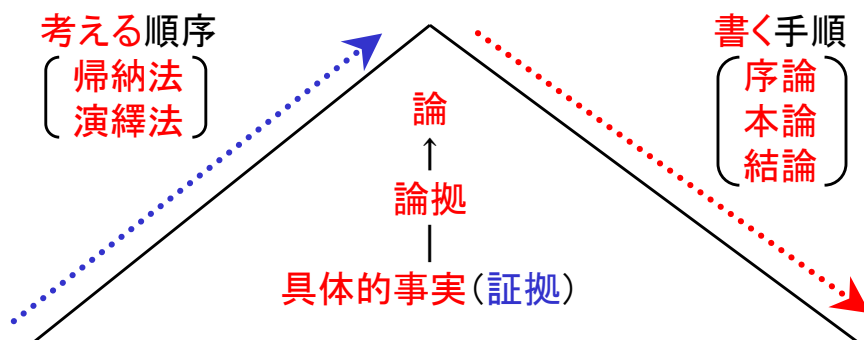
小論文の段落構成(定型)

- 自己主張の基本は“Main Point First”
 - 序論→Main Point
 - 導入(筆者は～述べている)
 - 論点(そこで～について考えたい or では～とは)
 - 論(結論からいえば～である)
 - 本論
 - 論拠(なぜ～なのか。それは～だから)
 - 具体例(例えば～ or 実際～)
 - 結論
 - 論の確認(以上の考察より、～)
 - 方向性=将来進む方向との関連づけ

93

小論文は「山登り」

- 考えるのは「登山」、書くのは「下山」
(ピラミッド構造)



94

(参照) Five Paragraph Essay

- Introduction(序論)
 - Thesis Statement 論の提示
- Main Body(本論)
 - Example 1 thesisの裏づけとなる根拠
 - Example 2 thesisの裏づけとなる根拠
 - Example 3 thesisの裏づけとなる根拠
- Conclusion(結論)
 - Summary 全体のまとめ(論の確認)

95

【例題】

近年、日本でもボランティア活動が盛んになってきています。社会におけるボランティア活動の役割と、ボランティア活動をする本人にとっての活動の意義の2点について、あなたの考えを500字以内で述べなさい。

(類題・広島大学)

96

Understand(設問の理解)

- 設問の理解

(1)社会におけるボランティア活動の役割と、(2)ボランティア活動をする本人にとって活動の意義の2点について、(3)あなたの考えを(4)500字以内で述べなさい。

(1)まず、「社会におけるボランティア活動の役割」について考えるのだな(論点1)。

(2)そして、「ボランティア活動する本人にとっての活動の意義」についても考えるのだな(論点2)。

(3)どこかのおじさん、おばさんの意見ではなく、私自身の考えを述べるのだな。

(4) 500字以内で、しかもできるだけ多い字数で書くのだな。

- 資料の理解→資料なし

- 出題意図の事前理解→志望校の「募集要項」を確認

Logic(論理づくり・帰納法)

- ボランティア活動に関する具体的事実を想起し、それを一般化する

(例)

- 「中学2年の夏から月に1回、利根川の川辺を掃除するボランティアをやっている。総合学習の一環として始めたものだが、意外と楽しんで参加してきた。学外の友だちや大人と知りあいになれたし、魚のメス化を進ませている環境ホルモンや化学物質の生物濃縮の話など、環境問題についても随分いろいろなことを学んだ。そんなことが影響してか、家でも意識的にリサイクルやゴミの出ない工夫をするようになった(具体例)」

- 「ボランティアは、参加したいから参加しているだけで、とくに見返りは求めない(自己目的の活動)。それゆえ、期待外の(意外な)新鮮な出会いや学びがある。さらに、社会そうした出会い、学びによって、本人が社会のなかで存在する個人であることを気づかせたりしてくれる(一般化・抽象化)」

98

Trimming(整理＝構成)

• 序論

- **論点**: 社会におけるボランティア活動の役割とは、そして、活動する本人におけるボランティアの意義とは、なにか。
- **論**: ボランティアには個々人が社会を担う一員であると認識させる役割がある。そして、そうした認識を得る過程で、さまざまな出会いや学びを得ることが個人にとっての意義にもなる。

• 本論

- **論拠**: なぜなら、ボランティアにはそもそも強制力や報酬がないため、既成の利害関係を抜きにして他者と付きあえるからだ。
- **具体例**: 利根川の川辺掃除のボランティア。

• 結論

- **論の確認**: 以上より、ボランティアは社会的視点を養い、予想外の学びや出会いを得るきっかけとなる
- **方向性**: ボランティアを通じたネットワーク形成を深めたい。

Action(表現)

• 序論

私は、社会におけるボランティア活動の役割とは(**論点1**)、個々人が社会を担う一員であると認識させることにあると考える(**論1**)。そして、活動する本人におけるボランティアの意義とは(**論点2**)、活動の過程で、さまざまな出会いや学びを得ることである(**論2**)。

100

・本論

なぜなら、ボランティアにはそもそも強制力や報酬がないため、既成の利害関係を抜きにして他者と付きあえるからだ(論拠)。例えば、私は中学2年生のときから、月に1回、利根川の川辺を掃除するボランティアをやっている。当初は総合学習の一環として参加し始めたが、3年以降は自主的に臨んでいる。掃除自体が目的だったから、学外の人たちと知りあいになれたことは、期待外ゆえにとっても新鮮だった。さらに、環境ホルモンや生物濃縮の話など、環境問題についても随分いろいろなことを学んだ。そうしたことが影響してか、家でも意識的にリサイクルやゴミの出ない工夫をするようになった(具体例)。

101

・結論

以上の考察より、ボランティアには、個人にとっては新たな出会いや学びの機会を得るという意義がある。そして、市場経済の浸透によって、人と人との貨幣によって結びつきがちな現代社会にとっては個々人の有機的な結びつきを促進するという役割がある(論の確認)。大学では、ボランティアを通じて積極的に新たなネットワークを築きたい(方向性)。

102

ULTRA!小論文(基礎編)

第7講

【Actionにおける注意①】

Career Development Adviser
(厚生労働省指定キャリア・コンサルタント)

クロイワ 正一

103

「骨組み」から「肉付け」へ

•【例題】

–地球規模での経済交流、文化交流が活発になるグローバル化社会で日本に求められる変化について述べよ(1,000字以内)。

(類題・一橋大学)

104

整理(骨組み)までは.....

- **Understand(理解)**
 - 論点: グローバル社会で日本に求められる変化
 - 字数: 600字以内(できるだけ多く)
- **Logic(論理)**
 - **帰納法(具体的事実→意見)**
 - 「いきなりNoは失礼」と考え「お愛想のYes」を述べ、結局は覆した官僚が外国政府から不信を買った(具体的事実)
 - 日本の常識は地球規模で通じはしない(一般的傾向)
 - 日本人の常識を再考する必要あり(意見)
 - **演繹法(一般的傾向→意見)**
 - 文化背景の違いで価値観は異なる(一般的傾向=大前提)
 - 日本人も異文化に対する寛容な姿勢が求められる(意見)

Trimming(骨組みの整理)

- **序論:**
 - **導入:** 日本はさまざまな形で、海外と交流している。インターネットなどを通じて、国家、企業はもちろん、個人レベルでも地球規模で交流している。
 - **論点:** グローバル化の中で日本にはどのような変化が求められるか。
 - **論:** 私たちは、価値観の多様性を前提とした、コミュニケーションの技術を磨くことが求められる。
- **本論:**
 - **論拠:** なぜか、それは自国以外の価値観の存在を認めることによりグローバルな友好関係を促進できるからだ。
 - **具体例:** 例えば、日米間では貿易摩擦が起こっていたが.....(具体例)。
- **結論**
 - **論の確認:** 以上より、日本人は、価値観の多様性を前提として、他国、他民族と相互理解を進めることに努力する必要がある。
 - **方向性:** 私は、日本語または日本的コミュニケーションの特徴について研究し、海外との認識のギャップを埋める活動に貢献していきたい。 106

内容を膨らませるテクニック

- **換言**:「すなわち・つまり・言い換えると」などの接続語によって言い換える。
- **詳述**:具体例を5W2Hなどに配慮して詳しく説明する。
- **列挙**:論拠やその裏づけとなる事例を多角的に並べ挙げる。
- **深耕**:根拠を深く掘り下げる。
- **誘引**:自分の得意ジャンルの話に誘い込む。
- **譲歩**:「なるほど・もちろん・確かに～かもしれない。しかし～」など、反論を挙げ覆す。

107

換言(言い換える)

- 「すなわち」「つまり」「言い換えると」「換言すれば」などの接続語で別の表現で言い換える。

【例】さまざまな形で海外と交流している。つまり、政治、経済、文化など多様な分野で、海外から影響を受け、また影響を与えている(具体化による換言)。インターネットなどを通じて、個人レベルでも、世界と交流が持てる。言い換えると、情報交流に関しては、国境がなくなったようなものだ(抽象化による換言)。こうしたグローバル化の中で、私たちは、どのような変化が必要とされるか。結論から言えば、価値観の多様性すなわち相対性(類義語による換言)を強く意識し、コミュニケーションの技術を磨く必要がある。つまり、誤解を生じない意志疎通の術を積極的に習得する必要があるのだ(反意語否定による換言)。

108

詳述(詳しく述べる)

- 5W2Hなどについて詳しく述べる。

- 時間 when
- 場所 where
- 主体(動作主)・対象 who(whom)・what
- 理由・原因 why
- 性質・状態・方法 how
- 数量 how many・how much

【例】高度成長期を経て(時間の詳述)、日本とアメリカの間では(場所の詳述)、貿易摩擦が生じてきた。日本側の、自動車などの輸出増加に対し、コメ、牛肉、オレンジなど、アメリカからの輸入品目に依然として制限が多いというのだ(対象の詳述)。

109

列挙(並べ挙げる)

- 時間(トキ)、場所・分野(トコロ)、対象・要素(ヒト・モノ・コト)などに変化をつけ、さまざまな例を挙げる。

【例】日本ととくに欧米各国との価値観の相違は、文明開化以来さまざまかたちで指摘されてきた。まず、福沢諭吉、夏目漱石などの海外渡航経験者による内的自覚がある。また、戦時中のアメリカ人文化人類学者の分析もある(時間の列挙)。

日本と外国との価値観の相違は、さまざまなフィールドで問題化している。アメリカなど輸出過多の国との貿易摩擦、中国、韓国、その他多くのアジア諸国との戦争解釈における認識の格差などである(場所・分野の列挙)。

日米貿易摩擦の焦点は、輸出入の額の格差だけではない。秘密主義か公開主義かといった商業習慣や企業倫理の違いも摩擦の原因になっている。さらに、コメ問題に代表されるような国民感情の相違も要素になりうる(対象の列挙)。

110

深耕（深く耕す）

- 「AだからB」といった論理に飛躍がないかどうかを確かめ、**論拠を補足**する。

（「 $A \rightarrow \alpha$ （補足） $\rightarrow B$ 」のように間を埋める）

【例】地球的規模での交流が進むと、多様な価値観を前提としてコミュニケーション技術を磨く必要がある（論）。なぜなら、グローバル化の進展により、国内外で異質な価値観を持つ人々と接触する機会が増えるからだ（論拠）。なぜ異質な価値観を持つ人々と出会う機会が増すとコミュニケーション技術を練磨する必要があるのか。それは、相手の価値観を認めたくて、自分の価値観も主張しないと対等で良好な交友関係は築けないからだ（**論拠の補足**）。¹¹¹

誘引（誘い込む）

- **得意分野**の話題へと**誘い込む**

– 高度情報化、グローバル化、少子高齢化、環境問題、教育問題、食糧問題など、小論文テーマは根底でつながっている……だから、どこかに**得意ジャンル**をつくっておくと、**別の話題**にも**応用**できる。

【例】自国以外の価値観の存在を認めることにより、グローバルな友好関係を促進し、国内の問題を解決するヒントも得られる。例えば、スウェーデンなど北欧の福祉国家は、先行して高齢化が進んだが、これらの国家と友好関係を結ぶことにより、日本が直面している高齢社会への具体的な対応策を実証的に学ぶこともできる（**高齢化**の話題を**グローバル化**に応用）。⁹¹²

譲歩(譲り歩み寄る)

- 予想される反論を想起し、それに譲り、歩み寄るポーズをとりながら、打ち破る。自分の立場を一方的に主張するのではなく、平衡感覚のある(偏りのない)思考を訴えられる。

【例】異質な価値観を認めることにより、グローバルな友好関係を促進できる。なるほど、島国という地理的条件と鎖国体制が日本独自の文化を醸成し、その上に現代日本人の生活があるという点では、自国の価値観にこだわることも必要かもしれない。しかし、一度門を開き、海外と交流している現在、閉鎖的なこだわりを持つのは現実的でない。むしろ、海外文化と接触して変化した新しい日本文化のなかに独自性を見出すほうが歴史的に見ても自然だ。

113

Action(膨らませて表現)

- 序論

現在日本は、さまざまな形で、海外と交流している。つまり、政治、経済、文化など多様な分野で、海外から影響を受け、また影響を与えている。インターネットなどを通じて、個人レベルでも、地球規模の交流が持てる(導入)。こうしたグローバル化の中で、日本には、どのような変化が求められるか(論点)。結論から言えば、価値観の多様性すなわち相対性を意識し、コミュニケーションの技術を磨く必要がある。つまり、誤解を生じない意志疎通のスキルの積極的な習得が求められているのだ(論)。

114

・本論

なぜ、日本人は価値観の多様性を前提として、コミュニケーション技術を磨く必要があるのか。それは、異なる価値観の存在を認めることにより、対立を回避しグローバルな友好関係を築くことができるからだ(論拠1)。例えば、戦後の高度成長期、バブル経済期を経て日米間では貿易摩擦が生じていた。原因は、輸出入の格差といった数字上の問題だけではなく、秘密主義と公開主義といった商習慣の違いも関わっていた。また、中国や韓国など、東アジア諸国との間にも戦争に関する認識格差の問題を抱えている(具体例2)。

115

・本論(つづき)

また、他国の価値観の存在を認め、グローバルな友好関係を促進することにより、国内の問題を解決するヒントも得られる(論拠2)。例えば、スウェーデンなど北欧の福祉国家では、日本よりも先行して高齢化が進んだが、これらの国家と友好関係を結べば、日本が直面している高齢社会への具体的な対応策を実証的に学ぶこともできる(具体例2)。なるほど謙遜、誠実、勤勉など、日本人が美德とする価値観にはこだわるべきものがたくさんあるかもしれない。しかし、自国の価値観にこだわることと他国の価値観を受け入れることは必ずしも矛盾しない。現に資源を大切にする価値観を象徴する「もったいない」という日本語は海外でも受け入れられているし、本音を語りあう「オープンマインド」の発想は、日本での言論の自由を活性化させている⁶。

・結論

以上により、グローバル化が進展する現在、日本人は、価値観の多様性を前提として、他国、他民族との相互理解を進めるコミュニケーションスキルを磨く努力をする必要がある(論の確認)。私は、日本語または日本的コミュニケーションの特徴について研究し、海外との認識のギャップを埋める活動に貢献していきたい(方向性)。

117

118

ULTRA!小論文(基礎編)

第8講

【Actionにおける注意②】

Career Development Adviser
(厚生労働省指定キャリア・コンサルタント)

クロイワ 正一

119

表現・表記のルール

- 原稿用紙の使い方についての注意
- 第1人称代名詞(自分のことをどう呼ぶか)
- 文末表現の統一(常体か敬体か)
- 文の長さ(1文が長すぎるとどんな問題があるか)
- 会話表現、略字、略語の回避
- 数字、アルファベット、記号の表記
- 字数制限(「～字以内」はどのくらい書けばよいか)
- 字の巧拙(「上手な字を評価する」わけではないが……)
- 呼応表現(副詞の係り結びに気をつけよう)
- 「思う」「考える」(連発すると不自然)

120

原稿用紙の使い方①

- **形式段落の分け方**

- **形式段落**は、新しい行から、1マス空けて書き始めます。したがって、原稿用紙の第1行目は、第1段落の書き初めだから、1マス空けて書き始めます。第1段落が終了したら、改行して、新しい行から、第2段落を書き始めます。このときも、**新しい行の1マス目は、「空き」**にします。本を読み慣れていれば自然に理解しそうなことですが、意外に統一的な理解がなされていません。稀ですが、行を改めずに、1マス空けて、同じ行に書き続ける答案や、改行しても、行頭を1マス空けない答案に出会うことがあります。もし、このように勘違いしている人がいたら、すぐに改めましょう。

121

原稿用紙の使い方②

- **段落とは**

- **段落**を分ける基準は「**意味のまとまり**」を単位とします。「序論、本論、結論」型で書くなら、少なくとも3段落構成となります。さらに、本論を「**具体例の段落**」と「**一般的傾向**」の段落に分ければ、4段落構成になります。字数との関連で考えると、200字以上の「まとまり」が複数できれば、段落分けをした方がいいでしょう。逆に、200字以下でたびたび段落分けをすると、大きな構成をとらえにくくなるので、避けた方がいいでしょう。そんなときは大きな「まとまり」として合体させます。

- **少ない字数の段落分け**

- **少ない字数制限**(200字以下など)の論述で、段落分けの必要がないばあいもあります。要約問題などもそうです。こうしたケースでは、1行目の**行頭**はとくに**1マス空ける必要はありません**。つめて書いて結構です。

122

原稿用紙の使い方③

• 行頭の記号の処理

- 句読点や閉じカッコが行頭に来そうな場合は、孤立させず、前の行末のマスに、文字と一緒に書き込んでください。

な	の	で	あ	る			
。	そ	し	て	、			

 →

な	の	で	あ	る	。		
そ	し	て	、				

漱	石	の	『	こ	こ	ろ	
』	に	お	け	る			

 →

漱	石	の	『	こ	こ	ろ	』
に	お	け	る				

123

第1人称代名詞

• 自分をどう呼ぶか

- 自分の呼称、すなわち第1人称代名詞については、「私(わたし)」で統一します。漢字でも、ひらがなでもいいでしょう。避けるべき表現は、「ぼく(僕)」や「おれ」、さらに「自分」です。これは、小論文の性格(意見文)、読み手の性格(大学の先生、学者)を考慮して、相応しくありません。さらに「幼さ」や「粗雑さ」を伝えてしまいますから、やめましょう。

• 特殊な指示がある場合は.....

- 設問に特殊な指示があるとき、例えば「歴史上の人物をひとり想定して語らせなさい」などと指示されたときには、「わし、拙者、わらわ」などと、効果的にアレンジしてもいいでしょう。

124

文末表現の統一

- **文末表現は敬体か常体か**
 - 文末表現には、「……である、……だ」で表す**常体**と、「……です、……ます」で表す**敬体**との2種類があります。小論文の答えは、**常体**で統一するのが基本です。小論文は「論」を訴える意見文ですから、**常体**で統一したほうが明解です。
- **特殊な設問の指示がある場合**
 - ただし、ここでも「第1人称」と同じく、**設問に特殊な指示**があるときは、**適当にアレンジ**すると効果的です。例えば、「高校の先生にむけて、手紙形式で書きなさい」などの指示がある場合には、**敬体**で書いたほうが適切でしょう。

125

文の長さ

- **ひと続きの文は歯切れよく短めに**
 - 1文が長すぎると、次の2点でわかりにくさを招きます。
 - **主語-述語の関係**をあいまいにする
 - **修飾語-被修飾語の関係**をあいまいにする

【悪い例】

「資料を見ると、高齢社会は、今後ますます医療技術が進歩し、平均寿命が伸びること、女性の社会進出による晩婚化、非婚化、出産費用や教育費用の高額化にともなう少子化などが進むなかで、人口の比率が相対的に高齢者層に集中してきている」

※極端な例ですが、まず、「高齢社会は」(主語)にあたる述語が見あたりません。次に、「資料を見ると」(修飾語)は、どこにかかっていくのか、かかるべき被修飾語を捉えにくいのです。このような例は、文が長いことによってしばしば生じています。

126

文の長さは歯切れよく短めに!

- 短く切って接続詞でつなぐ

- 文章は「.....し、.....して、.....たり、」などと連用中止法や接続助詞を用いてダラダラつなげず、読点を打つ前に言い切りましょう。そして、接続詞で新しい文をつなげます。

【修正例】

「資料を見ると、高齢社会は、今後ますます進むことがわかる。その原因は、次のとおり3つ考えられる。第1に、医療技術が進歩し、平均寿命が伸びていること。第2に、女性の社会進出による晩婚化、非婚化が進んでいること。第3に、出産費用や教育費用の高額化により、少子化が進んでいること。こうした3点のような原因から、高齢者層の人口が相対的に増してきているのだ」

127

会話表現の回避

- 会話調表現は避ける

- 入試の答案は、友人どうしの会話、手紙のやりとりなどと違って「公式な文書」の性質を帯びています(お金を払って入学の審査を受ける書類だから)。それゆえ、「文書」として適当な表現が要求されますし、「正式名を楷書で書く」などといった若干の堅苦しさも要求されます。以上の理由で、会話調の表現、略字、略語は減点の対象になります。

- 避けるべき会話調表現

- ×「.....しちゃう」 → ○「.....してしまう」
- ×「.....じゃない」 → ○「.....ではない」
- ×「.....って(感じ)」 → ○「.....と(いう感じ)」
- ×「.....とか(いう)」 → ○「.....など(という)」
- ×「.....なんだ」 → ○「.....なのだ」
- ×「.....なんていう」 → ○「.....などという」
- ×「でも、けど」 → ○「けれども、しかし」 など

128

略字、略語の回避

- 略字や略語も避ける

- 略字や略語も意識して避けましょう。略字に関しては、次の2点をとくに注意しましょう。また、書道の有段者などで行書、草書を書きなれている人も、略字体にならないように注意が必要です。

- 門、問、間、聞などの「門」(もんがまえ)の略字
- 第一、第二などの「第」の略字

- 略語も、自分達しか使わない可能性があるのも、要注意です。例を幾つか挙げますから、このような略語をほかにも使っていないか、意識しましょう。

- × 定演 → ○ 定期演奏会
- × 部活の朝練 → ○ 部活動の早朝練習
- × インハイ → ○ インターハイ など ¹²⁹

数字、アルファベットの表記

- 縦書きでは数字は漢字表記が基本

- 縦書きか、横書きかによって、数字表記の規則は異なります。まず、縦書き表記では、数字は基本的に漢数字で統一し、アラビア数字では書かないようにしましょう。ただし、横書きでは、とくにそうした決まりはありません。さらに、横書きでは、アラビア数字で書く際には、1マスに2文字まで入れることができます。アルファベットも同じです。それらの基準は「数字は1マスに2字まで入れてよい」などと指示されることがありますから、それに従いましょう。

- ○ | 二 | ○ | 五 | ○ | 年 | (縦書き)
- × | 2 | 0 | 5 | 0 | 年 | (縦書き)
- △ | L | o | v | e | (縦書き)
- ○ | ラ | ヴ | (| 愛 |) | (縦書き)
- ○ | 二 | ○ | 五 | ○ | 年 | (横書き)
- ○ | 2 | 0 | 5 | 0 | 年 | または | 20 | 50 | 年 | (横書き)
- ○ | L | o | v | e | または | Lo | ve | (横書き) ¹³⁰

記号の表記①

• カギカッコ

- さまざまな記号がありますが、中でも受験生が一番間違いやすいのは、**二重カギカッコ**(『……』)の使い方です。次に、**欧文記号**すなわち**感嘆符**(!)、**疑問符**(?)、**クォーテーション・マーク**(".....")などです。
- まず、**二重カギカッコ**は、次の2つのケースが原則的な使い方です。
 - さまざまなジャンルの**作品名**
『河童』(小説)、『ローマの休日』(映画)、『ひまわり』(絵画)など
 - **カギカッコ内のカギカッコ**(「.....」の中のカッコ)
「『ありがとう』の一言により、自分の行為が客観的に正当化された」という意見は.....

131

記号の表記②

• 感嘆符、疑問符など

- また、**欧文記号**も**多用は避けましょう**。そもそも日本語表記に存在するものではありませんし、どのようなケースで使うか、**定義もあいまい**だからです。とくに、縦書きでは、使わない方が無難です。「使う**必然性がない**」という**マイナス評価**につながりますから、次のように改めます。
 - × 賛成ですか？ 反対ですか？
→ ○ 賛成ですか、反対ですか、
 - × なんと素晴らしいことか！
→ ○ なんと素晴らしいことか。
 - × “わたし”を意味する
→ ○ 「わたし」を意味する

132

字数制限

- 1,000字以内の場合、制限字数は50字単位で決められているケースがほとんどです。また、1,000字を超える場合は、100字単位で指定されます。たとえば、「600字以内(程度)」、「750字以内(程度)」、「1,200字以内(程度)」、「1,500字以内(程度)」といった具合です。このことから制限字数に関して、次のことが言えます。
 - 1,000字以内の字数制限では「50字が基本」と考える。
 - 1,000字を超える字数制限では「100字が基本」と考える。
- 具体的には.....
 - 「600字以内」なら「550字より多く600字以内で書く」
 - 「1,200字以内」なら「1,100字より多く1,200字以内で書く」。

133

字の巧拙

- 1画1画丁寧を書く
 - 「字がきたない」と自覚のある人、または、そうした指摘を受けたことのある人は、上手でなくてもよいですから、丁寧にしっかりした字を書くことをこころがけましょう。採点者も人間だから「読む気にならない」ような答案には、高い評価はつけがたいでしょう。「読みにくい文字、数字は採点の対象外とします」といったコメントをしている大学の学部もあります。
 - なぜかしっかりした意見を書く生徒は、字もしっかりしています。小論文の答案練習を続けて、内容的にも充実してくると、グニャグニャした字から、しっかりした字を書けるようになった例もあるほどです。

134

自信のない語彙

- **確かな語彙知識**で書く
 - 漢字などの語彙に**自信のない**人は、現代文などの学習を通じて、語彙や正確な漢字の知識を増やすべきです。しかし、もし、試験場で**忘れ**などがあつたら、どうするか。「**イチかバチか**」の勝負に出るのは**危険**です。それよりも、同じような意味の**他の言葉**を思い浮かべたほうがいいでしょう。危険を背負って、結果的にミスして減点されるのはもったいないですから。
 - 例えば、「**躊躇**する」と書きたいが、この漢字が思い浮かばない。また、「**残酷**な」の「**酷**」が思い出せない。このようなときは、あえてその語にこだわらず、「**ためらう**」、「**むごい**」などと書けばよいのです。¹³⁵

呼応表現(係り結び)

- **呼応の副詞(係り)**には**対応表現(結び)**を
 - 最近、**呼応表現(呼応の副詞とその結び)**の誤用が目立ちます。「**結び**」を出さないケースが多いのです。「**ぜんぜん**」や「**まったく**」は、本来**打ち消し(否定)**を**強調**する言葉ですが、肯定を強調するときに平気で使っていることがあります。次のような表現は、誤りですから注意しましょう。
「こうした経験が、**まったく(ぜんぜん)**役立つのだ」
「そのとき私は**まるで(あたかも)**赤ちゃんだった」
「**もし**私が空を飛べたとき、**さぞかし**楽しい」

136

「思う」「考える」

- 「**思う**こと」「**考える**こと」を書くのが**小論文**

- 「**思う**」または「**考える**」という表現をよく用いる人は**使いすぎに注意**しましょう。こうした表現は**小論文**では、とくに書かなくても構いません。結局「**思い、考え**」(**論**)を述べるわけですから、**書く必要がない**のです。
- 使うとしても、**序論**で**論**(仮説)を述べるときに「**私は～考える**」と一度くらいで止めておきましょう。

137

138

ULTRA!小論文(基礎編)

第9講

【形式別攻略法①(テーマ型)】

Career Development Adviser
(厚生労働省指定キャリア・コンサルタント)

クロイワ 正一

139

小論文の出題形式

- **テーマ型**
 - とくに資料は示されず**テーマ**のみ提示
- **ワード型**
 - 使うべき**語句(キーワード)**を提示
- **文章型**
 - 資料として**文章**を提示、**内容理解の問題**も付随
- **図表型**
 - 資料として**グラフ**や**表**などを提示、**読み取り**も付随
- **教科型**
 - **英語、数学、歴史、理科**などの**教科知識**も要求¹⁴⁰

テーマ型小論文

- **テーマ型**では「**具体化**」がポイント

【例題】

- 以下のテーマについて、あなた自身の考えを具体的に800字以内でまとめなさい。

テーマ：豊かさの中の貧困

(類題・聖路加看護大学)

141

Understand (設問の理解)

- 条件1: **論点(テーマ)**は「**豊かさの中の貧困**」
 - 「豊かさの中には、どういう貧困があるのか」
 - 「(ものが)豊かになると、なぜ(ところが)貧しくなるのか」など
- 条件2: 「あなた自身の**考え**」を述べる
 - 自分自身で考えたプロセスを示す
- 条件3: 「**具体的に**まとめる」
 - 「豊かさ」や「貧困」について、現象などを指摘して具体的に述べる
- 条件4: 「**800字以内**」でまとめる
 - 800字を超えないでできるだけ多く書く

142

Logic (論理づくり)

- 帰納法 (具体的事実 → 意見)
 - 「豊かさ」の中に「貧困」がある**具体的事実** (自分自身の**体験**または周辺社会の**観察**)を想起する
 - ファーストフードでのアルバイト (食材の大量廃棄)
 - **具体的事実**の背後にある**傾向**を探る
 - もの (物質) の豊かさの中でのこのころ (想像力) の欠如
- 演繹法 (一般的傾向 → 意見)
 - 「豊かさ」や「貧困」に関する**一般的傾向** (誰もが認める**大前提**、**常識**、**法則**)を想起する
 - 「豊かさ」とは相対的なものである
 - **一般的傾向**を**テーマ**にあてはめる
 - 「豊かさ」を追求するときりがなく (余裕がなくなる)

143

Trimming (整理 = 構成)

- 序論
 - **論点**: なぜ物質的な豊かさの中に精神的な貧困が現れるのか。
 - **論**: 私は、物質的な豊かさが、想像力を働かせる余地をなくし、精神的な成長を鈍らせるためだと考える。
- 本論
 - **論拠**: なぜなら、ものが豊富にあると、そのものの扱いや、維持にこころを奪われてしまうようになるから。
 - **具体例**: 例えば、アルバイトでこういう経験をした。
- 結論
 - **論の確認**: よって、ものの豊かさが、想像力、感受性の鈍化をもたらし、その結果、精神の貧困を生んだ。
 - **方向性**: ものにこころを奪われないため、ものから離れて、想像力を自由に解き放つ時間を持ちたい。

144

Action(表現)

・序論

現代の日本は、物質的には豊かだが、精神的には貧しくなったと指摘される。自己中心的な犯罪が頻発している状況などを見ると、そうした指摘は的を射ている(導入)。豊かさの中に、精神的な貧困が生じているのだ。では、なぜ物質的な豊かさの中で精神的な貧しさが生じてきたのだろうか(論点)。私は、物質的な豊かさに安住してしまうと、それ以上に想像力が働きにくくなり、精神的な成長が鈍るためだと考える(論)。

145

・本論

なぜなら、物質的な豊かさによって、すでにできあがったもの、できあがったしゅみを消費することに多くの関心を奪われるからだ。その結果、自由な想像力は働きにくくなり、感受性も鈍くなる(論拠)。こうしたことは、私のアルバイト経験からも言える。私は、人との接しかたを勉強するためもあって、ハンバーガーショップでアルバイトをしていた。そこでは、一定の時間を過ぎると、作り置きした商品を捨てていた。食中毒などを起こさないための処理だという説明に納得はしたが、正直いって当初は「もったいない」と思っていた(具体例)。

146

・本論(つづき)

また「そんなに作り置きしなければいいのに」とも思った。さらに、厨房にいたときは「せっかく作ったのに捨てるなんて」となにか淋しささえ感じた。こうした流れが可能なのは、食材の豊かさが保たれているからだ。しかし、その行為は、ハンバーガーという物質の背後に、それを作った人がいる、さらには、それを作った人の心があることを想起しにくくしてしまう(具体例のつづき)。

147

・結論

以上より、ものの豊かさが、精神の貧困を生んだ背景には、想像力の鈍化が関わっている(論の確認)。そもそも、現代が豊かになったのは、創意工夫すなわち想像力が根底にあったからだ。磨くべきは、まさに想像力なのだ。そうした自由な想像力を解き放つため、現代人にはものから離れて思索する時間が必要だ(方向性)。

148

ULTRA!小論文(基礎編)

第10講

【形式別攻略法②(ワード型)】

Career Development Adviser
(厚生労働省指定キャリア・コンサルタント)

クロイワ 正一

149

ワード型小論文

- ・ **キーワード**を指定し、その**キーワード**を盛り込んで書くことを要求するタイプの小論文

【例題】

次の5つの語句を用いて、15字前後でタイトル(題)をつけ、600字以内で教育について考えることを述べなさい。5つの語句の使用順序や使用回数は自由とするが、必ず5つ全部を使用し、初めに出てきたときには傍線を付すこと。ただし、タイトルについては、5つの語句以外を使ってもよい。

- ①豊かさ、
 - ②実際の体験、
 - ③子どもの荒れ、
 - ④擬似体験、
 - ⑤知育偏重
- (類題・広島大学)

150

キーワード間の関係の把握

- 文章全体が1テーマでまとまることが大切
- 一貫性を持たせるため語の関連性を発見
 - a. 共通関係
 - 共通な点はないか。また、どういう点で共通するか。
 - b. 対立関係
 - 対立する点はないか。どういう点で対立するか。
 - c. 因果関係
 - 原因と結果の関係になっていないか。
 - d. 包含関係(抽象-具体関係)
 - 一方が他方の具体例になっていないか。

151

Understand(設問の理解)

- 条件1: 指定のキーワードを答案に5つすべて盛り込む。
- 条件2: 15字前後でタイトル(題)をつける。
- 条件3: 書くべき字数は600字以内でできるだけ多く書く。
- 条件4: 論点は「教育」。
- 条件5: 「(私が)考えること」を述べる。
- 条件6: キーワードを初めに書いたときは傍線を付す。

152

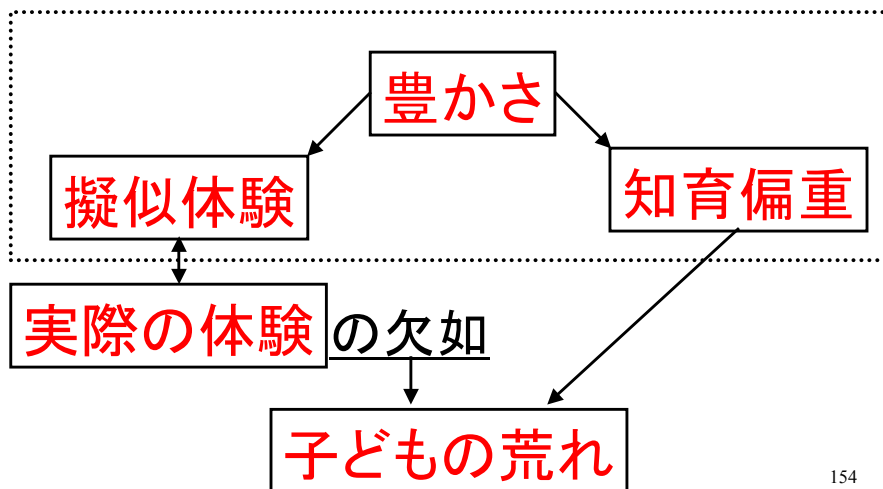
Understand(語の関連性の理解)

- キーワードが多い場合はグループ化する
 - 「豊かさ、擬似体験、知育偏重」
 - 「子どもの荒れ」
 - 「実際の体験」
- キーワードの関連性を探る
 - 「高度経済成長を実現して、量的拡大(GDPなど)が国民の関心の中心になった。ものの豊かさの追求だ。子どもの成績評価も知識量を問う量的指標で測られるようになった(知育偏重)。それゆえ知識を増やすため、放課後や夏休みは塾などで缶詰めになる。娯楽は豊かさの恩恵である擬似体験創出道具(テレビゲーム、携帯電話などの情報機器)に偏り、自然や人とふれあう実際の体験からは遠ざかる。それが子どもの荒れにつながる」

153

キーワードの関連性

- キーワードの相互関係を考える



154

Logic (論理づくり)

- 帰納法 (具体的事実 → 意見)
 - 豊かさ、擬似体験の増加、知育偏重が子どもの荒れを招く**具体的事実** (体験、観察) の想起
 - 豊かになり情報通信機器やゲーム機は増えたが、弟世代ではイライラも増えたようだ
 - **具体的事実** の背後にある**傾向** を探る
 - 豊かさ志向で失われる実際のふれあい体験の大切さ (人間関係、癒し)
- 演繹法 (一般的傾向 → 意見)
 - 擬似体験に関する**一般的傾向** (常識、法則) の想起
 - 情報機器の普及は人間の五感を鈍くする
 - **一般的傾向** を**テーマ** にあてはめる
 - コミュニケーション能力を磨けずに子どもたちは荒れる

Trimming (整理 = 構成)

- 序論
 - **論点**: 今の日本の教育に必要なものは何か。
 - **論**: 人や自然とふれあう実際の体験だ。
- 本論
 - **論拠**: なぜなら、そうした経験の欠如によりさまざまな問題が生じているから。
 - **具体例**: 例えば、私と弟の世代の違い。
- 結論
 - **論の確認**: 以上より、現代の教育には実際のふれあい体験が必要だ。
 - **方向性**: 将来を考え、この問題意識を保ちたい。

156

Action(表現)

- **タイトル:**

日本の教育に必要なふれあい体験(15字)

- **序論**

近年、学級崩壊や凶悪犯罪の低年齢化など、子どもの荒れが目立つ(導入)。では、こうした荒れを解消するため、教育においていま必要なこととはなにか(論点)。わたしは、人や自然とふれあう実際の体験が必要だと考える(論)。

157

- **本論**

なぜなら、科学技術の発達によってもたらされた豊かさの中で、子どもの能力も数量で測られるようになり、知育偏重への傾向が強くなったからだ。同時に、情報機器の発達により、擬似体験をする機会が増した。こうした社会の変化の中で、子どもが人や自然と直接ふれあう機会は減り、人とつきあうスキルを形成したり、自然の中で解放感を得たりしにくくなった。その結果、子どもは、ストレスを感じなくなるようになる(論拠)。例えば、私は、子どものころ、放課後友人と自然の中で戯れることにより、人との接し方を学んだり、憩いを得たりした。しかし、弟世代になると、小学校からの塾通いが当たり前になり、気の休まる時間がない(具体例)。

158

・結論

以上より、子どもを健全に育てるために、今の教育には、人や自然との直接的なふれあい体験が必要だ(論の確認)。将来教師を目指すわたしは、総合的な人間育成の立場に立った学校を研究するため、このような問題意識を忘れずに育んでいきたい(方向性)。

159

160

ULTRA!小論文(基礎編)

第11講

【形式別攻略法③(文章型)】

Career Development Adviser
(厚生労働省指定キャリア・コンサルタント)

クロイワ 正一

161

文章型小論文の攻略

- 段落読み(ミクロ)と全体読み(マクロ)
 - 段落読み:各段落のキーワードを探る
 - 全体読み:キーワード間の関係を探る
- 要約
 - キーワードのまとめ
- 意見(論)を導く
 - 筆者の意見をどう見るか
 - 批判的読解(クリティカル・リーディング)

162

Understand(文章の理解)

- 文章の**構造的**理解(構造=しくみ、つくり)
 - 段落読み(マイクロ・リーディング)
 - 段落内(ブロック内) **キーワード**の選定
 - その段落ではどんなメッセージを伝えたいのか、その中心となるべき考えを象徴する**キーワード**を探る
 - 全体読み(マクロ・リーディング)
 - 各**キーワード**の比較・全体内役割検討
 - 文章全体で各段落が果たしている役割を探る(文章全体の**構造**の理解)

163

要約の手順

- 文章の**構造的**理解
 - 論は?論拠は?
- 字数調整
 - **キーワード**(Key Word)の優先順位を理解
 - 指定字数に合わせて上位から選択
 - **キーワード**(KW)をつないでまとめる
 - 注意
 - **キーワード**は言い換えない
 - **キーワード**の順序は変えない

164

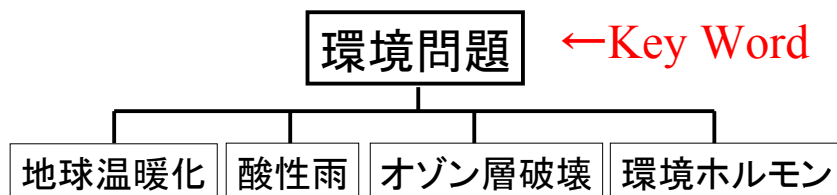
キーワードを1つ選ぶ

1. 20世紀後半から**環境問題**がクローズアップされてきた。CO2など温室効果ガスによる**地球温暖化**はその典型的な例である。また、**酸性雨**、**オゾン層破壊**、**環境ホルモン**なども地球生態系の存続に黄色信号を灯している。
2. 近代以降、**科学技術**の発展に伴い、私たちの日常生活にさまざまな**利便性**がもたらされてきた。しかし他方で、**環境問題**など**予期せぬ不都合**も生じるようになった。とくに20世紀後半からそうした**問題**が**深刻化**し、人類自身の存続可能性を狭める域にまで達してきた。今後私たちは、科学技術の利用に関して根本的な**解決策**を講じなければならない。

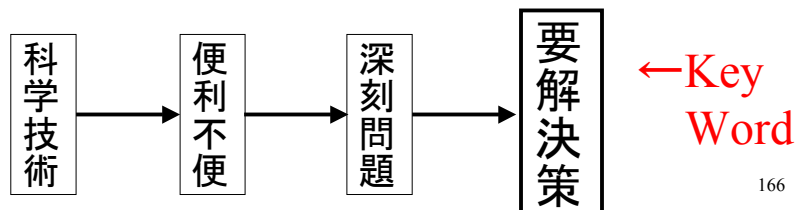
165

キーワード探索のコツ

- **まとめことば**(抽象度の高いことば)



- **むすびことば**(段落・ブロック内の結論)



166

【例題】

- 次の文章を読み、問いに答えよ。

問1 100字以内で要約しなさい。

問2 文章の内容について800字以内であなたの考えを述べなさい。

【問題文】は次以降のスライドを参照

167

(第1段落)

現代の家族はさまざまな点で変化している。先進国では、産業構造が変化し農村部から都市部へと人口流出が進んでいる。そして、形態的には核家族化と家族規模の縮小化が促されている。都市部においては夫婦と子ども2人という核家族が、今や日常的である。

168

(第2段落)

家族のあり方に大きな影響を与えた要因は2つの方向から考えることができる。第1に、女性の社会進出である。第3次産業が盛んになることにより、女性の職場が拡大された。また、家庭電化製品やレトルト食品が普及したことも、女性の就労を促した。仕事を持つ主婦の数は昭和58年(1983年)以降、専業主婦の数を上回っている。

169

(第3段落)

日本の女性の就労パターンは、さまざまな学校を卒業した後に就職するが、結婚と出産で一度、仕事を辞めて家庭に入り、子どもから手が離れてから再び就労するM字型のパターンであると指摘される。結婚したら家庭に入るといふ、戦後続いてきた日本女性の生き方と変わってきているのは、子育ての時期においても、子どもの預かり合いをしながら、学習や地域のいろいろな社会的活動に参加していることである。

170

(第3段落つづき)

つまり、専業主婦でも、社会参加しているのが近年の特徴なのである。そして子どもに手がかからなくなると、多くの妻たちがパートタイマーとして再び職場に出る。「嫁いだら夫に従え」と教え込まれた戦前生まれの女性と違って、男女平等思想を身につけた戦後育ちは、自分の意見を口に出して主張し、行動できる世代である。このような女性の積極的な社会進出が家族に与えた影響は大きい。

171

(第4段落)

現代の家族の変化に影響を与えている第2の大きな要因は、高齢化の問題である。寿命の伸びにともなって、60代の子どもが80代、90代の親の世話をしているいわゆる「老老介護」の例も珍しいことではなくなった。差し迫った老親の介護だけでなく、人生80年間をどう生きるかということが私たち一人一人が考えなければならない課題である。そして、この課題も、今後の家族のありかたと密接に関わってくるであろう。

172

第1段落のつくり(構造)

現代の家族のさまざまな変化 **KW**

核家族化と家族規模の縮小化

夫婦と子供二人(都市部)

農村部から都市部への人口流出の常態化

産業構造の変化(先進国)

173

第2段落のつくり(構造)

家族のあり方

女性の社会進出 **KW**

女性の職場の拡大

家庭電化製品

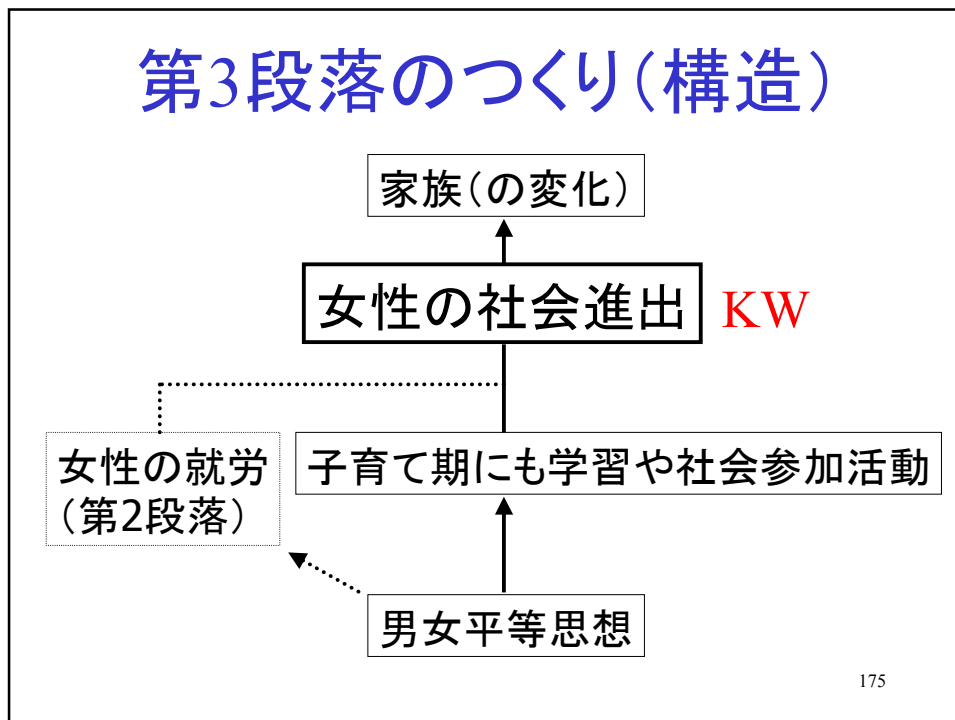
レトルト食品

第3次産業の隆盛

仕事を持つ主婦<専業主婦(昭和58年)

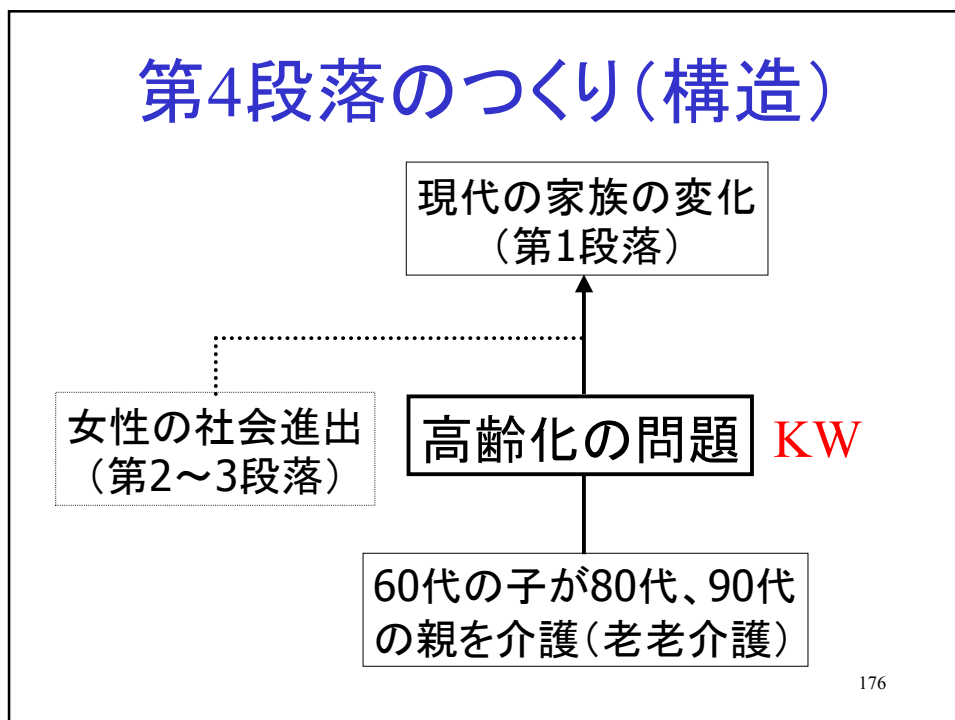
174

第3段落のつくり(構造)



175

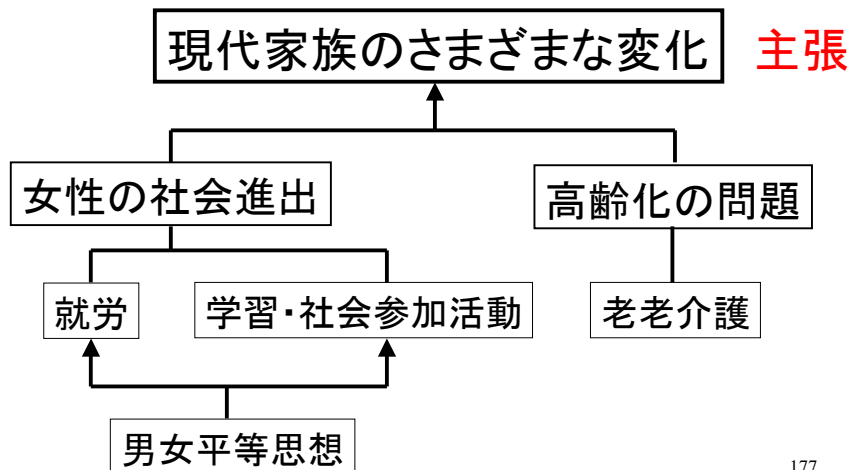
第4段落のつくり(構造)



176

文章構造のピラミッド化

- キーワードの階層化



177

要約字数と盛り込む内容

- 10字以内で**表題**(**タイトル**)をつけよ
 - 現代家族の多様な変化
- 25以内で**表題**(**タイトル**)をつけよ
 - 現代家族の多様な変化を招いた女性の社会進出と高齢化
- 40字以内で**主旨**(**要旨**)をまとめよ
 - 現代の家族は多様に変化しているが、その主な要因は、女性の積極的な進出と高齢化だ。

178

問1(要約例)

核家族化や家族規模の縮小化など、現代の家族はさまざまな点で変化している。その変化の第1の要因は、男女平等思想を身につけた現代女性の積極的な社会進出である。第2の要因は、老老介護など高齢化の問題である。(100字)

179

ここで一休み.....

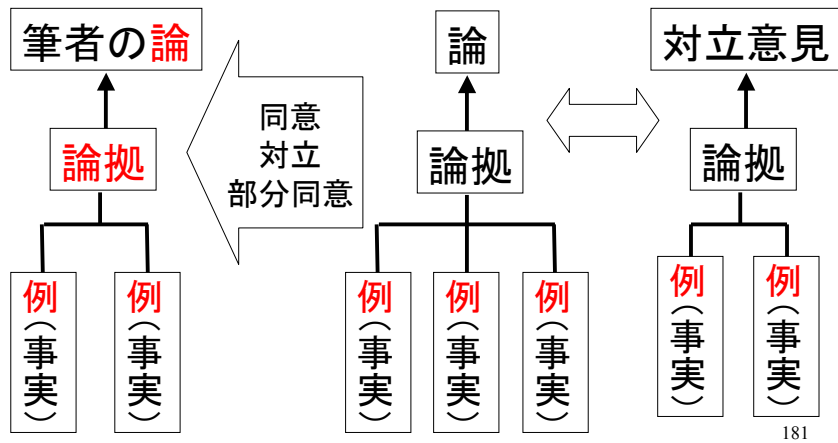
Coffee Break



180

論理ピラミッドの応用(論述)

- 自分の論(意見)をどうつくり、どう書くか?



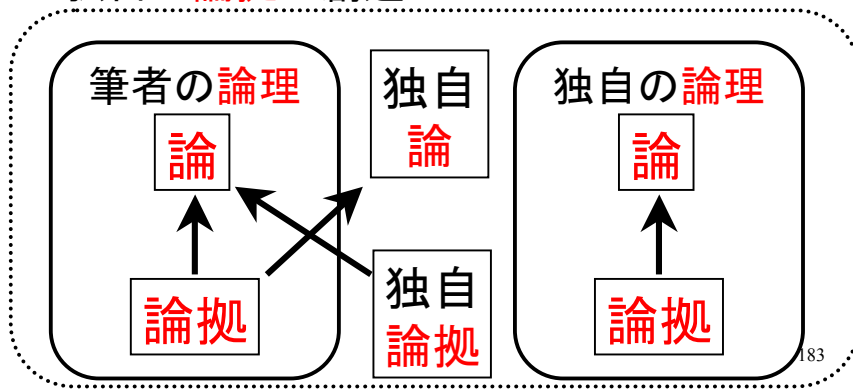
クリティカル・リーディング 批判的読解

- **ことば**で書かれたものは必ず批判できる
 - ことば = 現実世界の「切り取り」
 - ゆえに筆者が「切り取れなかった」現実を想像
- 「現代の家族は本当に変化している」のか?
 - 変化している部分
 - 核家族化、家族規模の縮小化は確かにあるが……
 - 変化していない部分
 - ○○は江戸時代から変わっていないじゃないか……
- だから**自分の文章(論)**も必ず**批判**される
 - 「お互いさま」なのだから恐れてはいけない

182

独自意見をどう創るか

- 独自の論理(論と論拠)の創造
- 独自の論の創造
- 独自の論拠の創造



Logic(帰納法)

- **具体的事実**の想起
 - 出版社で働く姉は「女性だからといって不利になることがある」という。また、姉の友人は金融機関を寿退社させられたという……。
- **事実から意義**を抽出(一般化)
 - 家庭では依然として女性の地位が低い。
- **論**を決定
 - 家庭での女性の役割はあまり変わっていない(筆者の意見に対する反論)。

184

Logic (演繹法)

- **一般的傾向**の想起
 - 社会制度はそれが成立した社会自体が変わると機能しなくなる(**制度疲労論**)。
- **論**を決定
 - 家族の形は変化したのに、家族のことを定める法制度が変化していないので、性の差による不平等が生じている。
- **具体的事実**の探索
 - 夫婦別姓、待婚制度により生ずる不平等。

185

Trimming (整理)

- **序論**→Main Point First
 - **導入**: 筆者は家族は変化してきたと述べている。
 - **論点**: はたして本当にそうだろうか。
 - **論**: 女性が社会進出するだけでは家族は変わらない。社会のしくみを変える必要がある。
- **本論**
 - **論拠**: まだ日本社会には女性が進出しても十分に活躍するしくみが整っていない。それゆえ、そうした価値観が家庭にも持ち込まれ、家事＝女性の仕事という家族内での固定観念は拭かれていない。
 - **具体例**: 姉や姉の友人の話を知ると、女性の社会進出は進んでも、まだまだ不平等も多い。
- **結論**
 - **論の確認**: 以上より、社会のしくみの変革が必要だ。
 - **方向性**: 自分の活躍を通じて、性による社会的不平等の不当性を訴えていきたい。

186

Action(表現)

・序論

文章の筆者は、女性の社会進出や高齢化の問題が、現代の家族を変化させていると指摘している。しかし、私の身の周りを見ると、必ずしもこの指摘はあてはまらない。とくに女性が社会進出することで家族が変わったという意見には、そのまま肯けない(導入)。本当に家族は変わったのか(論点)。結論から言えば、女性が社会進出するだけでは、家族の役割は実質的に変わらない。家庭内での役割の変化を促すには、性によって社会的役割が決まるしくみそのものを変える必要がある(論)。

187

・本論

なぜなら、いくら女性の進出が進んだとしても、職場で男性と対等な地位が保証されていなければ、「男性上位」の価値観は社会から消えないからだ。そうした価値観が社会に残れば、「家事は女性の仕事」といった昔ながらの価値観も簡単にはなくなる(論拠)。現に、私の姉やその友人の話を知ると、そうした実情がよくわかる。姉は月刊誌の編集者としても働き、家事は夫と分担している。しかし、女性の編集者というだけで、不当な扱いを受けることもあるという(具体例)。

188

・本論(つづき)

暇な男性編集員がいるのに「お茶汲み」を要求されたり、取材先でセクハラに遭ったりするというのだ。また、結婚と同時に銀行を退職せざるをえなかったという姉の友だちの話もある。「なぜ、女性だけが寿退社しなければならないのか納得いかない」と彼女は漏らす。義兄のように家事に積極的に参加している男性は多くはないそうだ。社会には、そして、多くの男性の意識には、まだ昔ながらの考えが残り、女性の地位向上を阻んでいる(具体例)。

189

・結論

以上より、女性が量的に職場に進出するだけでは、家庭での役割分担も実質的に変わらない(論の確認)。私も姉のように結婚しても社会の第一線で働きたいと考えている。自らの活躍を通じて、性によって社会的役割を限定する不当性を訴えていきたい(方向性)。

190

ULTRA!小論文(基礎編)

第12講

【形式別攻略法④(図表型)】

Career Development Adviser
(厚生労働省指定キャリア・コンサルタント)

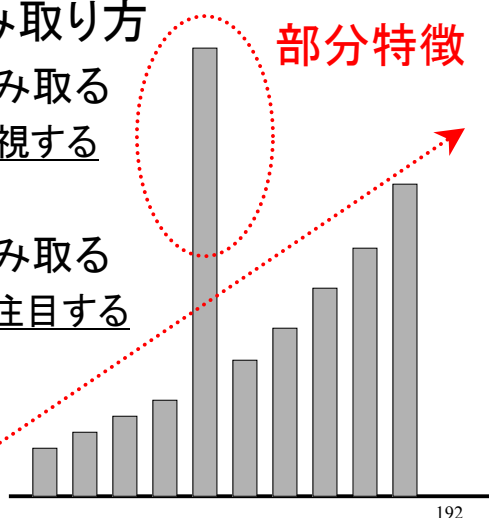
クロイワ 正一

191

図表型小論文の攻略

- 表やグラフの読み取り方
 - 全体的傾向を読み取る
 - 多少のズレは無視する
(誤差)
 - 部分的特徴を読み取る
 - 大幅なズレには注目する
(有意差)

全体傾向



【例題】

次のページの表は、ある年の日本人の成人男子・女子の平日の家事時間を表したものです。

この表からわかることを読み取り、あなたの考えを述べなさい(全体で800字以内)。

193

表：性・年齢別、平日の家事時間（平均時間）

	男子	女子
成人全体	32分	4時間32分
20歳代	22分	2時間50分
30歳代	32分	6時間31分
40歳代	22分	4時間52分
50歳代	24分	4時間32分
60歳代	49分	4時間30分
70歳以上	1時間07分	3時間20分

※注：家事時間とは、炊事・掃除・洗濯、買い物、子どもの世話、家庭雑事にかかった時間の合計である。

194

Understand (図表の理解)

全体的傾向と部分的特徴の読み取り

	男子 ←	→ 女子
成人全体	32分	4時間32分
20歳代	22分	2時間50分
30歳代	32分	6時間31分
40歳代	22分	4時間52分
50歳代	24分	4時間32分
60歳代	49分	4時間30分
70歳以上	1時間07分	3時間20分

表から読み取れる特徴

1. 男子よりも女子のほうがすべての年齢において圧倒的に家事時間が長い
2. 男子は、ほぼ年齢が高くなるにつれて家事時間も長くなっている
3. 女子は30歳代を頂点として、それ以降は年とともに家事時間が短くなっている
4. 女子の30歳代の家事時間は、男子と比べても、女子の他の年代と比べても、極端に長い

196

図表を読み取る際の注意

- 顕在化している**情報**のみを読み取る
 - 誰が見てもわかる**客観的情報**
- 潜在化している**情報**は「意見」で指摘
 - 表面的に現れていない情報は「図表の読み取り」結果としては提示しない
 - 「私の**考え**」として指摘する
 - 「30歳代女性は結婚や出産・育児のために家事時間が極端に長くなっている」→「**読み取り**」結果ではなく「**考え**」として指摘

197

Logic (帰納法)

- **具体的事実**の想起
 - 共働きなのにわが家の家事はほとんど母が担当しており、そのために仕事で希望が通らないこともある……
- **事実**から**意義**を抽出(**一般化**)
 - 女性の家事時間が長すぎることにより仕事で支障が生ずることがある
- **論**を決定
 - 男女間で家事時間にこうした差があるのは大きな問題である

198

Logic (演繹法)

- **一般的傾向**の想起
 - 人は能力や意欲によって社会から評価され活躍の場を得るべきだ
- **論**を決定
 - 能力や意欲を考慮するのではなく、先天的な性によって、社会参加よりも家事を強制するのは大きな問題だ
- **具体的事実**の探索
 - 大学生の就職活動における性差問題

199

Trimming (整理)

- **序論**
 - **導入**: 表からは次の4つのことが読み取れる。第1に男女を比べると……。第2に男子は……。第3に女子は……。第4に30歳代の女子は……。
 - **論点**: このような現状に問題はないか。
 - **論**: 大いに問題がある。
- **本論**
 - **論拠**: 女子が社会参加する可能性を狭めている。
 - **具体例**: 例えば、わが家でも、母が正社員になれず……。
- **結論**
 - **論の確認**: 以上より、表に示されるような現状には、大きな問題がある。
 - **方向性**: 生涯仕事を続けるためにも、専門的な知識や技術を身につけたい。

200

Action(表現)

・序論

- 表から、以下の4点が読み取れる。第1に、性別で比較すると、男性よりも、女性のほうが圧倒的に家事時間が長い。第2に、性別ごとに見ると、男性はほぼ年齢を経るにしたがって家事時間が長くなっている。第3に、女性は30代以降、年齢とともに減少している。第4に、30代女性の家事時間は、20代の倍以上で他の年齢と比べても突出している(導入)。そこで、私が特に注目したのは、就業年齢における女性の家事時間の長さだ。このような長時間にわたり女性のみが家事に携わることは、どんな問題を孕むのか(論点)。結論から言うと、こうした現状が続けば、意欲や能力が正当に評価されない不平等社会が形成されてしまうという問題がある(論)。

201

・本論

なぜか。それは、女性の高学歴化も進み、複雑な社会で活躍できる多様な能力や主体的な意欲を開花させているのに、家事の負担が大きすぎれば、そうした能力、意欲の活用は、断念しなければならないからだ(論拠)。実際、私も兄も、小学校に通うまでは、専業主婦だった母の手を煩わせていた。また、母は、仕事を再開させた後も家事との両立を余儀なくされていた。一方、同じ仕事を持つ立場の父は、以前と変わらず仕事に専念していた。「それがあたりまえ」といった態度だった。しかし、ある日「パートから正社員への昇格を打診されたのだけれど、勤務時間が長くなるからって、お父さんが反対なの」と母が愚痴をこぼしていたことがあった(具体例)。

202

・結論

このように、女性の家事時間が長すぎることは、裏を返せば、女性が社会で働く意欲や能力が犠牲になっていることをも意味している。すると、性別など、先天的な要素によって社会的役割が決まってしまうので、不平等感が蔓延し、社会に無力感が広がる（論の確認）。こうした現状を是正するには、学校でも、家庭でも家事に対する男女共同参画の意識を醸成する教育が必要である（方向性）。

203

204

ULTRA!小論文(基礎編)

第13講

【テーマ学習①(ADAPT)】

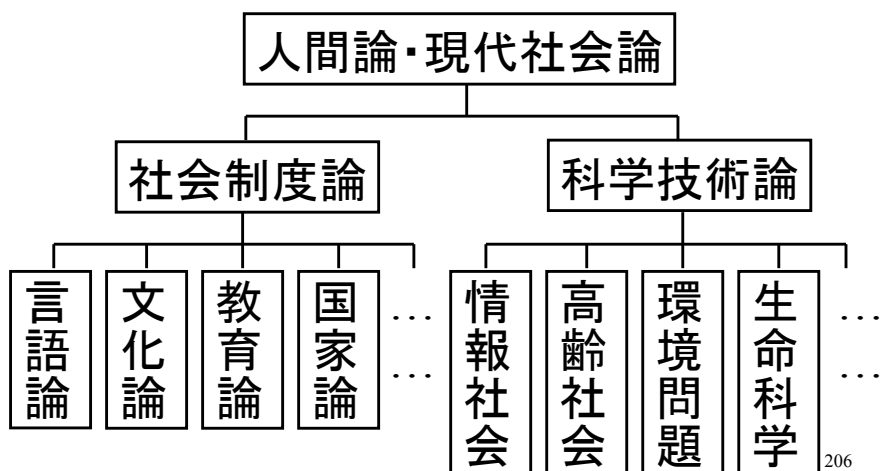
Career Development Adviser
(厚生労働省指定キャリア・コンサルタント)

クロイワ 正一

205

入試小論文のテーマ

- 具体的～抽象的・根本的なテーマ



206

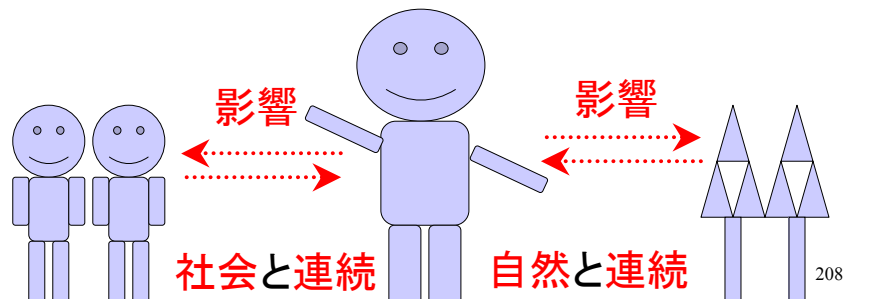
人間論・現代社会論

- 人間論 (Analog, Digital, Absurdity)
 - 人間は環境と連続してAnalog存在するが
 - 環境と離散してDigital思考し、創造し
 - 自己矛盾Absurdityを招く存在である
- 現代社会論 (Problem, Treatment)
 - 現代社会はそうした自己矛盾が問題化Problemし
 - 解決策、処方Treatmentを要する

207

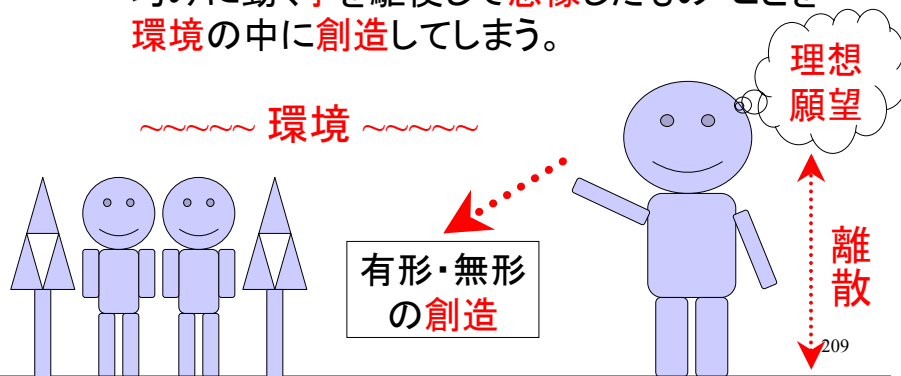
Analog (連続性) な存在

- 人間は社会や自然と連続して生きている
 - 人間は社会環境の中で他の人間の影響を受け、また影響を与えながら存在している
 - 人間は自然環境の中で他の自然物の影響を受け、また影響を与えながら存在している



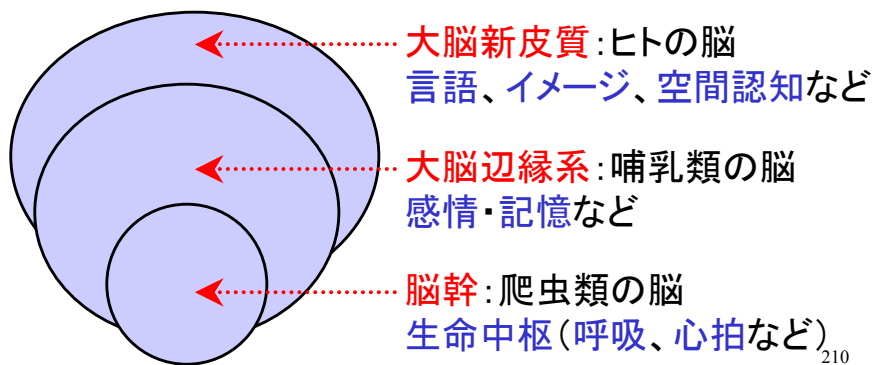
Digital(離散性)な思考

- 人間は環境と離散した思考をしている
 - 言語やイメージを駆使して「環境にないもの・こと」を想像する(理想、願望など)。
 - 巧みに動く手を駆使して想像したもの・ことを環境の中に創造してしまう。



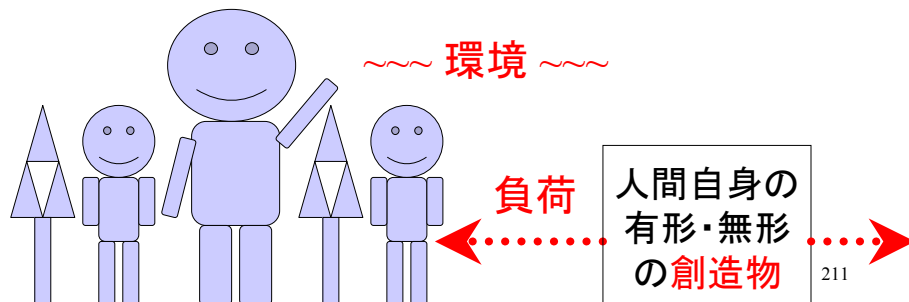
Digital思考が得意な脳

- 人間の脳の特徴
 - 大脳新皮質の容量が他の動物に比べ大きい
 - 大脳新皮質の役割(言語、イメージなど)



Absurdity(矛盾・不合理)

- 人間が創造する事物は環境に負荷を与える
 - 人間の想像(理想・願望)は必ずしも環境の存続にとって好ましいものではないから、環境にとって負荷となることもある
 - 住みにくい社会環境、自然環境⇒反理想



Problem(問題群)

- 例①: 高齢化
 - 「皆が長生きできる社会」を理想として、医学を開発してきたが、本当に皆が長生きしてしまって「高齢者を支えることが難しい社会」を生み出してしまった自己矛盾(年金・医療費の財源不足、寝たきり・認知症の介護など)
- 例②: 高度情報化
 - 「いろいろな情報を皆で分かち合える社会」を理想として、ICT (Information Communications Technology) を開発してきたが、本当にどんな情報でも分かち合えるようになり、「知られたくない情報も探られる」という問題を招いてしまった(個人情報から国家機密に至るまでの漏洩など)。

212

Treatment(対処)

- **批判精神**に基づく想像力(imagination)
 - 人間の思考、創造は、結果的に自己矛盾(「理想」を描いて「理想と反対」の方向に進むこと)に陥ることがある。
 - それゆえ、「理想に進んでいるつもりが反理想の方向に進んでいるかもしれない」といった**批判精神**に基づく**想像力**が重要である。
- **環境との対話**(communication)
 - 人間の棲家(自然環境、社会環境)の破壊を食い止めるために、「どうですか?」と**環境**と柔軟に**対話**することも重要である。

213

ここで一休み.....

Coffee Break



214

【例題】

- 次のページ以降の《問題文》を読み、問1および問2に答えなさい。

問1 筆者の主張を150字以内で要約しなさい。

問2 筆者の主張を踏まえて600字以内で創造的思考と人間の関係について、あなたの考えを述べなさい。

(類題・慶應義塾大学)

215

《問題文》

人間の「こころ」の働きを考えると、2つのレベルの「意識」を想定すると説明しやすい。第1に、目、耳、鼻などの感覚器官を通じて、外部環境の刺激や対象に気づくことである。これを意識1と呼ぼう。

第2に、対象に気づいていること(意識1)に気づいていること、すなわち、意識1を意識の対象とすることもある。これを意識2と呼ぶ。

意識1は周辺に刺激や対象を必要とするが、意識2は時空を超えて生じるものである。例えば、実際に花を見たときに生じる意識1は眼前に花を必要とするが、「そういえばあのとき自分は花を見ていたな」と回想する意識2は、目の前に花が存在しなくとも生じる。

216

《問題文》つづき

意識1は他の動物も持つだろうが、意識2は言語やイメージ(映像など言語以外の情報処理)など、高度な創造的思考を操れる人間に特有のこころの働きといえよう。他の動物がそうした創造的思考活動ができないという裏づけはないが、身体に占める脳の割合、とくに言語やイメージを司る大脳新皮質の割合から考えて、人間が優位であることは論を待たないだろう。犬や猫が「そういえば、昨日の肉は味と食感が最高だったな」と言語やイメージを駆使して回想することは考えにくいのである。

こうした意識2による創造的思考は、人間社会に他の動物には見られない「進化」をもたらした。言語やイメージを駆使し、目の前に対象がなくとも、かつて意識1として仕入れた情報を自由に加工して、新たな事物を社会の中に、創り出してきたのである。

217

《問題文》つづき

科学技術、文化遺産、社会制度など、あらゆる創造物は、人類の創造的思考の所産である。例えば、人類の走行速度は、どう頑張っても時速40kmにはならないが「もっと速く移動するにはどうしたらよいか」と方法論を模索し、その結果、車などを開発したのである。

しかし、人類の歴史を振り返ると、こうした創造的思考は自己矛盾を孕んでいることも事実である。さまざまな事物は、本来「こんなもの(こと)があったらよいだろう」と意図され創造されたが、結果的に人類自身、さらにはその棲家である地球環境に対して多大な負荷を与え「よくない」ものとなっているのである。車の開発は、人類に移動の利便性(よいこと)をもたらすとともに、事故、エネルギー枯渇、CO2排出による地球温暖化(よくないこと)なども招いたのである。

218

Understand (設問の理解)

- ①次のページ以降の《問題文》を読み、問1および問2に答えなさい。
問1 ②筆者の主張を③150字以内で②要約しなさい。
問2 ④筆者の主張を踏まえて⑤600字以内で⑥創造的思考と人間の関係について、⑦あなたの考えを述べなさい。
- 条件①:《問題文》を読むことが前提である
- 条件②:問1では筆者の主張の要約を求めている
- 条件③:問1の要約字数は150字以内である
- 条件④:問2では筆者の主張を踏まえることが前提である
- 条件⑤:問2では論述字数は600字以内である
- 条件⑥:問2の論点は「創造的思考と人間の関係」である
- 条件⑦:問2は「あなた(私)の考え」を求めている

219

Understand (文章の理解)

- 第1段落:人間のこころの働きは2レベルの意識で説明でき、まず意識1は、感覚器官を通じて外部刺激や対象に気づくこと
- 第2段落:意識2は、意識1に気づくこと
- 第3段落:意識1は周辺に刺激や対象を必要とするが意識2は時空を超え、それらを必要としない
- 第4段落:意識2は大脳新皮質が司る言語やイメージを駆使した人間特有の創造的思考
- 第5段落:意識2による創造的思考は人間社会に「進化」をもたらした
- 第6段落:あらゆる創造物が人類の創造的思考の所産
- 第7段落:創造的思考は自己矛盾を孕んでいる

220

問1(要約例)

人間のこころの働きは、感覚器官を通じて外部刺激や対象に気づく意識1と意識1に気づく意識2の2レベルで説明できる。意識1は周辺に刺激や対象を必要とするが意識2は必要としない。意識2は大脳新皮質が司る言語やイメージを駆使した人間特有の創造的思考で、人間社会に「進化」をもたらしたが、自己矛盾も孕んでいる。(150字)

221

Logic(帰納法)

- **具体的事実**の想起
 - 本来、飛行能力を持たない人類は、鳥が飛ぶ姿を見て「飛びたい」とイメージし、「飛ぶにはどうしたらよいか」と方法論を考え、その結果、飛行機を開発した。しかし、自動車以上のエネルギー消費や環境負荷物質の排出が生じた
- **事実から意義**を抽出(一般化)
 - 創造的思考による所産は確かに環境負荷を増大させる要素がある
- **論**を決定
 - ゆえに、創造的思考には自己矛盾があることを自覚してこれに向き合う必要がある

222

Logic (演繹法)

- **一般的傾向**の想起
 - 言語やイメージは実物ではなく、実物を示す代理物＝記号である(記号論)。
- **論**を決定
 - 言語やイメージは必ずしも現実には存在しないから、現実と対立する可能性がある。ゆえに、創造的思考によって現実の問題が解決できるとは限らない。批判的態度が必要。
- **具体的事実**の探索
 - 国家運営、経済、教育などの制度の形骸化

223

Trimming (整理)

- **序論**→Main Point First
 - **導入**: 筆者は創造的思考は自己矛盾を孕むと述べている。
 - **論点**: では、創造的思考とどのような関係を結べばよいか。
 - **論**: 人間は、言語やイメージによる創造的思考の結果に対して批判精神を持ってつきあう必要がある。
- **本論**
 - **論拠**: 筆者が指摘するように創造的思考による自己矛盾が現代社会に蔓延しているから。
 - **具体例**: 「空を飛べたら」といった想像と「飛行機を開発する」という創造が結果的に人類や環境に負荷をもたらしている。
- **結論**
 - **論の確認**: 以上より、批判精神を持って創造的思考に向き合う必要がある。
 - **方向性**: 言語・イメージ化された概念に対し批判的でありたい。

Action(表現)

・序論

筆者は、この世にないことを言語やイメージを駆使する創造的思考を人間特有の活動と捉え、そこには自己矛盾があると指摘している(導入)。では、こうした思考と我々人間は、どのような関係を結んでいけばよいか(論点)。結論から言えば、言語やイメージによる創造的思考に対して、批判精神を抱きながらつきあっていく必要がある(論)。

225

・本論

なぜなら、筆者も指摘するように、実際に存在しないものを創り出す創造的思考は、理想の実現など、人間の利益に繋がるだけでなく、予期せぬ反理想的状況、不利益、不都合ももたらすからだ。人間は言語やイメージで思考するとき、自分にとって都合のよい側面しか描かない。しかし、それが現実化(創造)されたとき、自然法則のすべてが解明されたわけではない現在、人間の想像を超えた不測の事態が起こる可能性は十分にある。それが人間を取り巻く環境と人間自身に対する負荷にもなるのだ(論拠)。

226

・本論(つづき)

例えば、飛ぶ鳥を見て「私も飛びたい」とイメージし「飛んだらどうだろう」と想像し、飛ぶしくみを模索し、20世紀になって人間は飛行機を創造した。ところが、飛行機から出る排気ガスは、人体にも自然環境にも負荷を与え、悲惨な事故のリスクまで抱えている(具体例)。

227

・結論

以上より、人間は、意識2によって生み出される概念に対して、批判精神を抱きながらつきあう必要がある。批判精神を抱くこと自体が言語活動だから、必要なのは自己批判的姿勢である(論の確認)。そう自覚し、言語で語られる理想や願望に対して柔軟な批判精神を抱き続けたい(方向性)。

228

ULTRA!小論文(基礎編)

第14講

【テーマ学習②(制度疲労)】

Career Development Adviser
(厚生労働省指定キャリア・コンサルタント)

クロイワ 正一

229

制度疲労

- **社会制度は疲労する(制度疲労論)**
 - 人間が言語やイメージを駆使して作るのが**社会制度**だが、それが**言語化(文書化)**されると「有効か?無効か?」といった吟味なしに「守るべき**教義(ドグマ)**」のようになることがある。
 - ⇒ **イデオロギー化**(アイデア **idea** のロゴス **logos** 化)
 - **社会環境が変化して制度が無効**になっているにもかかわらず、**ドグマ化した制度**だけが幅を利かしていると、多くの**不都合**が生じる。
 - **社会制度**に対しても「本当にこの制度は有効か?」といった**批判精神**が必要である。

230

疲労が生じている社会制度

- **社会保障制度**
 - 高齢化社会から高齢社会へ
- **文化への認識**
 - ナショナリズムからグローバリズムへ
- **ジェンダーに関する固定観念**
 - 筋肉労働(男性上位)から頭脳労働へ(男女平等)
- **教育制度**
 - マスプロダクション教育から個性尊重型教育へ
- **言語**
 - 単一言語社会から複数言語社会へ

231

【例題】

次のページ以降にある《問題文(英文)》を読み、下記の2つの問に答えなさい。

- 問1 本文で“classroom collapse”(学級崩壊)に関係あるものとして述べられている6つの理由を日本語で箇条書きにしなさい。
- 問2 英文で示される“classroom collapse”(学級崩壊)について、あなたの小学校時代の経験と関連づけながら、考えたことを日本語で述べなさい。(600字以内)

(類題・岩手県立大学)

232

《問題文》

It often starts when a single child won't stop talking. Then classmates join in, saying jokes or walking among the desks. Before long, the whole lesson is ruined. The Japanese call it “classroom collapse,” and see it as a big problem in the country's education system and a sign of unhappiness in young people. “This is a very serious problem,” said Yutaka Nabeshima, who is running an Education Ministry study of the problem.

(和訳)それは、一人の生徒が話すのを止めようとしないうちから、しばしば始まる。そこで、複数のクラスメートが参加し、冗談をいたり机の間を歩いたりするようになる。しばらくすると、授業全体がメチャメチャになる。日本人はこうした実態を「学級崩壊」と呼ぶ。そして、学級崩壊を、国の教育システムにおける重大な問題であり、かつ若年者が抱える不幸の予兆であるとみなしている。「これはとても深刻な問題です」とナベシマ・ユタカ、文部省当該問題担当者は言った。²³³

《問題文》つづき

Classroom collapse mostly takes place in elementary schools, where classes of 40 students spend the whole day with a single teacher. To people from other countries it may seem normal for kids to be noisy, but in Japan, where children are expected to be good without the teacher telling them, the problem is seen as very serious.

(和訳) 学級崩壊は、そのほとんどが小学校で起こっている。そして、その小学校とは、40人の生徒のクラスが、一人の先生とともに一日中を過ごすといったところだ。他国から来た人々にとっては、子どもたちがうるさいというのは普通のことと映るかもしれない。しかし、日本では、先生が言うことなしに(先生の指示なしに)子どもたちが良い子であることを期待されるので、その問題(学級崩壊)はとても深刻に見られている。²³⁴

《問題文》つづき

Many people have different ideas about why classroom collapse happens. For example, some say the education system is too old, some say that the teaching methods are boring and others say parents are not strict enough with their children.

(和訳) 多くの人々が、学級崩壊がなぜ起こるのかについて異なる考えを持っている。たとえば、教育システムが古すぎると言う人もいるし、教授方法が退屈だと言う人もいるし、親が子どもに対して十分に厳しくないと言う人もいる。

235

《問題文》つづき

Ryoichi Kawakami, a teacher who has written a book on the problem, thinks it is because of declining respect for schools and teachers and says today's children cannot work well in groups.

(和訳) カワカミ・リョウイチ(この問題について本を書いてきた教師)は、次のように考えている。すなわち、学級崩壊は学校や先生への敬意が減退したことによるものだと。そして、今日の子どもたちは集団でうまく作業ができないとも言っている。

236

《問題文》つづき

Jiro Saito, a writer, said the pressure to do well at school has created a generation of children who are afraid of making mistakes. When children suddenly feel that the pressure is too much, the classroom collapses. “Whatever the teacher says, you hear kids say ‘yes,’ but in their hearts many of them are thinking, “That's not right”, Saito said.

(和訳) サイトウ・ジロウ(著述業)は、次のように発言した。つまり、学校でうまくやろうというプレッシャーが、間違いをすることを恐れる子ども世代を形成してきたと。子どもたちが、プレッシャーが大きすぎると突然感じたとき、学級は崩壊するのだ。「先生がたとえなんと言おうと、子どもが『はい』というのをあなたは聞きます。しかし、こころのなかでは多くの子どもたちは次のように考えています。『それは正しくない』って」。サイトウは、そう言った。

237

《問題文》つづき

Many people say the Education Ministry needs to give students more freedom to study what they want. Others say it's time to tell parents to discipline their kids. “It's not just a problem of the schools--it's a problem of society as a whole,” Kawakami said. “We have to think again about what the school's role in society should be. ”

(Adapted from *The Japan Times*)

(和訳) 多くの人々は、次のように言う。文部省は、生徒たちがやりたいことを学ぶ自由をもっと与える必要があると。また、他の人々は次のようにも言う。すなわち、そろそろ親たちに自分の子を躾けるように言うべきときだと。「それは、学校だけの問題ではない——社会全体の問題だ」とカワカミは言う。そして付け加える。「わたしたちは、社会のなかでの学校の役割はいかにあるべきかについて、考え直さなければならない」と。(*The Japan Times* 参照)

238

Understand (設問の理解)

①次のページ以降にある《問題文(英文)》を読み、下記の2つの問に答えなさい。

問1 ②本文で“classroom collapse”(学級崩壊)に関係あるものとして述べられている6つの理由を③日本語で箇条書きにきなさい。

問2 ④英文で示される“classroom collapse”(学級崩壊)について、⑤あなたの小学校時代の経験と関連づけながら、⑥考えたことを日本語で述べなさい。(⑦600字以内)

- 条件①: 英文を読むことが前提
- 条件②: 問1は本文に関係ある学級崩壊の理由をまとめる
- 条件③: 問1は日本語で、しかも箇条書きで答える
- 条件④: 問2の論点は学級崩壊である
- 条件⑤: 問2では自分の小学校時代の経験も関連させる
- 条件⑥: 問2では日本語で自分の考え(論)を展開する
- 条件⑦: 問2の制限字数は600字以内である

239

Understand (英文の理解)

- 第1パラグラフ.....記事の導入(classroom collapse についての定義)
- 第2パラグラフ.....学級崩壊classroom collapseの理由についての意見の多様性
 - (1) some say the education system is too old,
 - (2) some say that the teaching methods are boring,
 - (3) and others say parents are not strict enough with their children.
- 第3パラグラフ.....Ryoichi Kawakamiの意見
 - (4) it is because of declining respect for schools and teachers,
 - (5) today's children cannot work well in groups.

240

Understand (英文の理解)

- **第4パラグラフ**.....Jiro Saitoの意見
(6) the pressure (to do well at school) is too much, the classroom collapses.
- **第5パラグラフ**.....「改革案」についての意見のバリエーション
(1) the Education Ministry needs to give students more freedom~.
(2) it's time to tell parents to discipline their kids.
(3) We have to think again about what the school's role in society should be.

241

解答例(問1)

1. 教育システムが古すぎること
2. 教える方法が退屈なこと
3. 親が子どもに対して十分厳しくはないこと
4. 学校と先生に対する敬意が減退していること
5. 今日の子どもは集団での作業がうまくできないこと
6. 学校では間違えないようにうまくやろうというプレッシャーを抱えているため

242

Logic (帰納法)

- **具体的事実**の想起
 - 私が小学校のとき学級崩壊はなかった。なぜか。授業はそれなりに楽しかった。塾や通信教育は当たり前になっていて学力差が大きかったが、先生ができない子をフォローしていた.....
- **事実**から**意義**を抽出(**一般化**)
 - 民間教育の発達などによる学力格差が、小学校での授業を焦点なきものにしており、細かなフォローを必要としている。
- **論**を決定
 - 多様化している子ども個人個人の能力や意欲を引き出す教育へと転換する必要がある

243

Logic (演繹法)

- **一般的傾向**の想起
 - 言語で定められる「制度」は環境変化によって機能しなくなる(制度ができたときの「状況」と今の「状況」は変化しているかもしれないから)
- **論**を決定
 - 教育制度も、時代の変遷(経済成長の終わり、民間教育機関の発達)によって柔軟に変わらないと現状に対応できなくなるから、改革する必要がある
- **具体的事実**の探索
 - グローバル化、高度情報化などの影響により子どもたちの価値観も多様化してきた(野球、サッカー、バスケットボール.....)

244

Trimming(整理)

- 序論

- **導入**:子どもたちの自由すぎる振る舞いで授業が成り立たない状態が学級崩壊である。
- **論点**:学級崩壊にどう対応すべきか。
- **論**:それには、柔軟なクラス編成が求められる。

- 本論

- **論拠**:今の教育制度(とくにマスプロ教育、画一化教育)は、時代の変化に合っていないから。
- **具体例**:例えば、私が小学生時代.....。

- 結論

- **論の確認**:以上より、学級崩壊を解消する一つの策として柔軟なクラス編成が有効だと考える。
- **方向性**:義務教育だけでなく、高等教育にもこうした発想が必要だ。

245

Action(表現)

- 序論

学級崩壊とは子どもの自由すぎる振る舞いにより授業が成立しない状態である(**導入**)。そうした学級崩壊を防ぐために、学校教育をどう改革すればよいか(**論点**)。結論から言えば、個人個人の能力や意欲を引き出す教育へと転換する必要がある(**論**)。

246

・本論

以下、理由を述べたい。現在の学校教育は、1クラス数十名での集合教育が中心だ。しかし、情報化やグローバル化の影響により、子どもたちの価値観も多様化し、1クラスの目的意識がそろふことは難しい。また、塾などの民間教育機関が発達したため、学校よりも早く高度なことを習う生徒もいる。同じクラスでも、理解度がバラバラなのだ。そんな状況ならば、授業への関心はわかず、学級崩壊も起こるだろう。ならば、必要最低限の知識は教えるとしても、義務教育の段階から個々の生徒の得意分野を伸ばす支援をしてはどうか。

247

・本論(つづき)

1日中同じメンバーが同じクラスで集う必要はない。もっと柔軟なクラス編成ができれば、個性が磨け、交流も広がる。学問、スポーツ、芸術、それ以外の道にも、それぞれにグローバルな舞台がある。個性を尊重した教育こそ、グローバルな活躍を促せるのだ(論拠)。実際、私が通っていた小学校では授業が楽しかったが、それは、できる生徒はどんどん先に進ませ、できない生徒は先生がフォローするなど、工夫をしていたからだ(具体例)。

248

・結論

以上より、学級崩壊を防ぐため、柔軟な教育施策が求められる(論の確認)。これは義務教育だけでなく、成熟社会に突入した日本の高等教育にも求められることだ(方向性)。

249

250

ULTRA!小論文(基礎編)

第15講

【テーマ学習③(科学技術)】

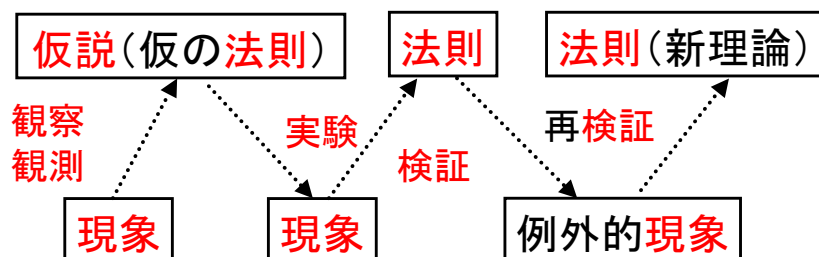
Career Development Adviser
(厚生労働省指定キャリア・コンサルタント)

クロイワ 正一

251

科学とは

- そもそも「科学」とはどのような営みか？
 - 現象の観察・観測を通じて「こんな法則がありそうだ」という仮説を導き出し、さらなる観察・観測や実験を通じて仮説を修正・検証し、信頼性(再現性)のある法則を導き出す学問の過程

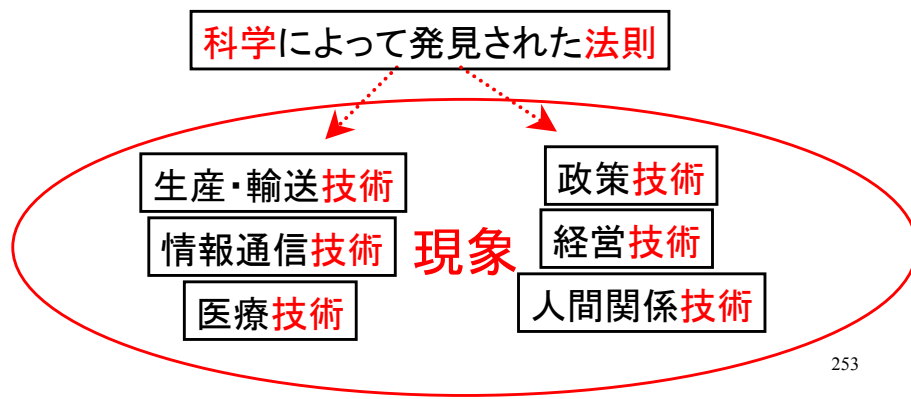


252

科学と科学技術

- **科学技術**とは?

- 科学(法則)を現象に応用する営み



科学の技術への応用

- **生産・輸送技術への応用**

- 動力開発**技術**(内燃機関)の開発により生産力・輸送力を向上

- **情報通信技術への応用**

- 電子操作**技術**の開発により大量・多様な情報を高速通信

- **医療技術への応用**

- 抗生物質やワクチンなどの開発により救命・延命を実現

254

科学技術の利便性

- **部分的・短期的な問題解決に有効**
 - もともと**科学**とは、**現象**を要素に分けて考えるため(**要素還元主義**、**分析主義**)、その**応用**である**科学技術**も1つ1つの要素についての問題解決には大きな効果を発揮する。
 - 「大量につくる」、「速く移動する」、「通信速度を早くする」、「できるだけ生命を延ばす」といったトピックに絞って効果を発揮(自然**科学**の応用)

255

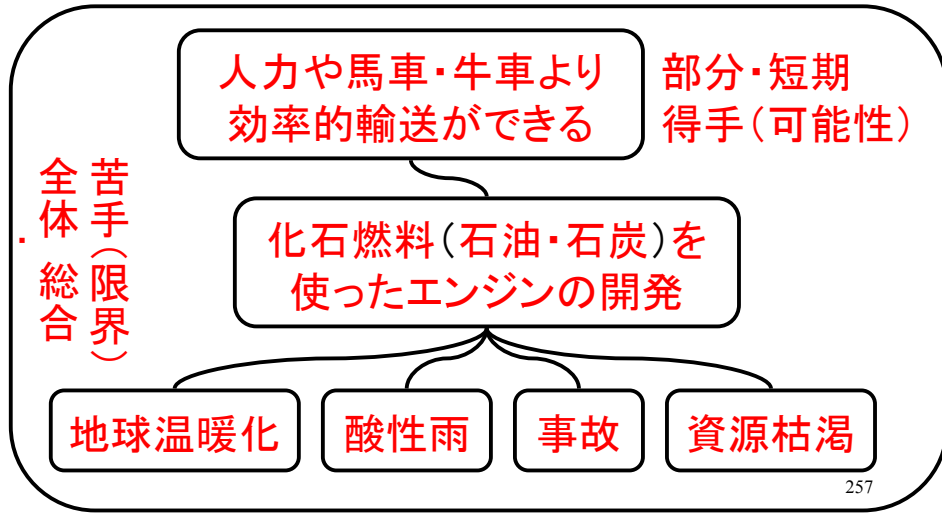
科学技術の限界

- **全体的・長期的な問題発生を招く**
 - **人間の生活環境(現象界)**は、科学が解明していない法則も含めて**総合的に**成り立っているから、「ある快適に実現」は、「別の快適の阻害」にもなる。
 - 「大量につくる」、「速く移動する」ことを実現し、「清しい空気を失う」ジレンマ、「子を風土病で失う悲しみから救済」され、「人口爆発で食の不足」などを生むジレンマなど。

256

科学の可能性と限界

科学の可能性と限界



生産技術・輸送技術

- 内燃機関の開発
 - 大量かつ高速な生産と輸送が実現
 - 大量消費・大量廃棄による諸問題
 - 地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊など環境問題
- 石油化学製品の開発
 - 安価で耐久性のある製品の開発
 - 環境親和性の乏しさ
 - 環境ホルモン(外因性内分泌かく乱化学物質)など

258

情報通信技術

- 光ファイバー、大容量メモリなどの開発
 - 大量・高速・多種の情報の双方向送受信
 - ブロードバンド、マルチメディア、バーチャルリアリティ
 - 有害情報の流布、経済格差による知識格差
 - ハッキング、クラッキング、デジタルディバイド
- 情報通信技術 (ICT) を扱う能力の必要性
 - Information Communications Technology
 - メディア・リテラシー

259

医療技術

- 延命・救命技術の開発
 - 抗生物質の開発、臓器移植など
 - 人口構成の変化(高齢化社会、人口爆発)など
 - 免疫力低下、抗生物質耐性菌(MRSAなど)の出現
- 生殖医療技術の開発
 - 人工授精(AIH、AID)、借り腹、代理母など
 - 既存の生命観との葛藤(「親は誰か?」)
- 遺伝子(ヒトゲノム)の解読
 - 予防医学の可能性(遺伝子治療など)
 - 過度の「先天性」重視(後天的な努力を無視)

260

科学に対する批判精神

- 科学技術によってもたらされる不都合・危機を可能な限り回避するために……
 - 「科学は万能である」という非科学的な信仰からの脱却が必要
 - 「利便性のみをもたらすわけではない」という科学技術への批判精神が必要

科学が解明した世界

現象界

261

ここで一休み……

Coffee Break



262

【例題】

次のページ以降の《問題文》を読んで、以下の問1および問2に答えなさい。

問1 《問題文》において、筆者は科学技術の発達をめぐってどんな意見の対立があると考えているかを150字以内で述べなさい。

問2 《問題文》の文末の下線部に関して「科学技術の発達を社会が制御できるか」ということを論点として、あなたの考えを400字以内で述べなさい。なお、《問題文》全体の結論になるようにまとめること。

(類題・宮城教育大学、慶應義塾大学)

263

《問題文》

20世紀から21世紀初頭にかけて地球規模で急激な人口増加があった。しかし、科学技術により食糧生産が急速に増加し、急激な人口増加を支えていった。ただし、近年ではこうした方法による食糧生産の増加にも、限界が近づいていると考えられる。農地の拡大の1つとして行なわれてきた灌漑事業が砂漠化を促しているし、既存の農地についても、長期にわたる化学肥料と農薬の使用によって塩害など、かえって地力が低下した農地が拡大しており、これ以上の収穫量の増大が望めなくなってきたといわれている。そして、なによりも、それらが環境や人間の生命に与える悪影響が明確なものとなってきた。

264

《問題文》つづき

ところが、こうした問題も、やはり科学技術の発展が解決するとみなす立場もある。そうした立場から、問題の解決に貢献するとして期待されている最新の技術が、遺伝子操作あるいは遺伝子組換え技術である。これは、ある生物から目的とする有用な遺伝子を取り出し、改良しようとする生物に導入することで、その生物がもっていなかった新しい性質を付与する技術である。日本にも農薬を使わない遺伝子組み換え大豆やトウモロコシを積極的に輸入していたことがある。この技術は、それまでの品種改良が超えられなかった種の壁を超えて遺伝子を導入できるため、農作物の改良の範囲を大幅に拡大し、世界の食糧問題や環境問題の解決に大きく貢献できるというわけである。

265

《問題文》つづき

しかし他方で、この技術によって生産された農作物の安全性や環境への影響を問題視する声も強い。遺伝子組換え食品の安全性は証明されているとする見解に対しては、遺伝子組換え技術は数十年足らずの歴史しかなく、その長期的な影響はわかっていないという反論がある。また、この技術によって害虫駆除や除草のための農薬散布の回数と使用量が削減でき、環境破壊を抑制できるという見解に対しても、遺伝子操作による新品種の創出は種の壁を超えて行なわれることから、生物の進化や従来 of 品種改良とは決定的に異なっているため、生態系のバランスを破壊してしまう危険性があるという指摘がある。

266

《問題文》つづき

人口増加と食糧問題の深刻さを考えると、遺伝子操作という技術の重要性を否定することは難しいように思えるけれども、だからといって安全性の問題を軽視することもできない。そもそも安全性の調査は、その時点で人間が想定する範囲内で実施するものであり、想定した範囲内で安全性が証明されたとしても、その範囲外でも安全であると断定することはできないのである。あるいは、実験室では専門家の管理の下におかれていたために安全であったものが、産業化され広く普及していくなかで予想外の結果をもたらすこともある。実際、安全であるとされていた技術が思わぬ危険性をはらんでいたことが後になって明らかになるという例は、過去に少なからず存在する。

267

《問題文》つづき

新しい技術が従来にない画期的なものであればあるほど、社会に広く普及してしまってから危険性が明らかになった場合、その弊害を除去するために長い年月と莫大な費用が必要となり、あるいは人間の生命をも犠牲にしてしまう可能性がある。こうした懸念から、科学技術は、その発展を制御する必要があるという主張が支持を集めるようになってきている。すなわち、科学技術の固有の論理にゆだねているだけでは、科学技術はむしろ社会に困難や混乱をもたらしかねないほどの速度で発達する可能性がある。それゆえ、社会がその成果を無理なく安心して受け入れられる速度まで、社会の側が科学技術の発達を制御しなければならないというのである。

268

Understand (設問の理解)

①次のページ以降の《問題文》を読んで、以下の問1および問2に答えなさい。

問1 ②《問題文》において、筆者は科学技術の発達をめぐってどんな意見の対立があると考えているかを③150字以内で述べなさい。

問2 ④《問題文》の文末の下線部に関して「科学技術の発達を社会が制御できるか」ということを論点として、⑤あなたの考えを400字以内で述べなさい。なお、⑥《問題文》全体の結論になるようにまとめること。

- 条件①:《問題文》を読むことが前提である
- 条件②:「科学技術の発達」をめぐり意見対立をまとめる
- 条件③:制限字数(問1)は150字である
- 条件④:論点は「科学技術の発達への社会からの制御」が
- 条件⑤:字数制限(問2)は400字以内である
- 条件⑥:意見論述は《問題文》の結論になるようにまとめる

Understand (文章の理解)

1. 科学技術～食糧生産を急速に増加させ、人口の急激な増加を支えていった。～ただし、こうした方法～限界。それらが環境や人間の生命に与える悪影響が明確なものとなって。
2. ところが、こういった問題も、やはり科学技術の発展が解決するとみなす立場(遺伝子操作、遺伝子組換え技術～)。～世界の食糧問題や環境問題の解決に大きく貢献。
3. しかし他方で、この技術によって生産された農作物の安全性や環境への影響を問題視する声も強い(安全性～わかっていない～生態系のバランスを破壊してしまう危険性)。
4. 遺伝子操作の重要性～安全性の問題を軽視もできない。
5. 科学技術は人間に多大な恩恵をもたらすものであるが、社会が適応できる速度を超えて～独走すると思わぬ大きな弊害を引き起こしかねないとして、その発展を制御する必要があるという主張が支持を集めるようになってきている。それゆえ、社会の側が科学技術の発達を制御しなければならない。 270

解答例(問1)

科学技術の発達は、人口増加を支える食糧増産など、人類に恩恵をもたらしたが、他方で環境や人間の生命への悪影響も生んだ。そこで、そうした科学技術の発達に対して、遺伝子操作などの科学技術のさらなる発展によって対処できるという意見と、科学技術の発展の速度を社会が制御する必要があるとする意見とが対立している。(150字)

271

Logic(帰納法)

- **具体的事実**の想起
 - 自動車産業でも、ハイブリッド・エンジンとか、燃料電池などが盛んに開発されていることをテレビのニュースで見た。さらには、クルマ自体に乗らずに、徒歩や自転車の利用を促す産業(スポーツ品メーカー、自転車産業など)も活況を呈している。地球規模で、環境への負荷(そして結果的には人体への負荷も)を軽減させる生活が注目を浴びてる。……
- **事実から意義**を抽出(**一般化**)
 - 地球を単位として考えるグローバル化が進展すればこそ、環境親和性を考慮することは、あらゆる主体(国家、企業、個人など)の21世紀の常識となってきた。
- **論**を決定
 - 社会が科学技術の発達を制御することはできる。

272

Logic (演繹法)

- 一般的傾向の想起
 - 期待した利益とともに予期せぬ不利益をもたらすのが科学技術だから、科学技術に対する批判精神が重要だ。
- 論を決定
 - 科学技術のみに頼った「競争上の優位」、「企業活動における利益」は、期待したものだけでなく、予期せぬ「劣位」や「不利益」も招く。ゆえに、市場競争、企業活動の戦略を練る際には、科学技術を制御する必要性が喚起される。
- 具体的事実の探索
 - ハイブリッドエンジン、燃料電池などの開発だけでなく「カーシェアリング」など「車自体に乗らないこと」も提案しないと、自動車産業は消費者に受け入れられなくなる。

273

Trimming (整理)

- 序論 → Main Point First
 - 導入: 科学技術の発達を社会が制御する必要性があるという主張が高まりつつある。
 - 論点: では、実際に科学技術の発達は制御できるのか。
 - 論: できる。制御することが社会全体の目標となる。
- 本論
 - 論拠: なぜなら、グローバル化の進展とともに、短期的な利便性よりも長期的かつ地球規模の安定を願う傾向が高まるから。
 - 具体例: 自動車産業の動向など……。
- 結論
 - 論の確認: 以上より、科学技術の発達は社会によって制御できる。

274

Action(表現)

・序論

社会の側が科学技術の発達を制御することなどできるのか(論点)。私は、その可能性は、十分にありと考える。奇しくも、輸送や情報分野での科学技術の発展がもたらしたグローバル化が、国家や企業に、その「制御」を促している(論)。

275

・本論

なぜなら、科学技術に基づく輸送技術や情報技術の進展によって地球規模の交流、つまりグローバル化が実現したが、そのおかげで、地球規模での諸問題が広く知れ渡ったからからだ。そこで、地球市民として、短期的な利便性よりも長期的かつ地球規模での安定を願う傾向が高まった(論拠)。例えば、地球温暖化、酸性雨などが世界的に報じられた結果、日本でも国家がリサイクル関連の法令を定めたり、企業も自動車産業における燃料電池の活用など、環境親和性を訴えた商品を開発したり、努力をしている。さらに、車など科学技術の産物を利用しないことを訴える議論もされ、行動も起こっている(具体例)。

276

・結論

ゆえに、市場競争での優位、
企業活動での利益も考えると、
科学技術の発達は社会から制
御できる(論の確認)。

277